

島根県の保育所・幼稚園・認定こども園における体験活動の実態調査 —体験活動を取り巻く地域の課題—

堅田 弘行*・加藤 友彦*・舟越 美幸*

要約

島根県内の保育所・幼稚園・認定こども園を対象に体験活動の実態を質問紙調査法によって調査した。運営母体や地域、施設種別を問わず、自然体験活動は各保育現場で活発に行われていたが、生活・文化体験活動や社会体験活動が行われているのは特定の保育現場のみで、実施されていない所が多数であった。体験活動を行うための課題に対する回答から生活・文化体験活動や社会体験活動を実施するための具体的な方法が備わっていないこと、近隣に施設等が無く、移動手段を含めた困難さがあると考えた。但し、各地域では周辺に当たり前にある自然や動植物を栽培・飼育しながら体験活動に取り組んでいるといえる。また、地域別に体験活動の実施頻度をみたところ、出雲市や雲南市といった地域では行政と保育現場が一体となって活発に取り組んでいることがわかった。

保育・幼児教育の現場で体験活動を実施するための課題として、保育現場には「外部の人材の活用」、行政には「保育現場と外部の人材を結びつけるコーディネーターの設置」、保育者養成校には「養成段階から体験的活動を基盤においた学習の充実」があることを示した。

キーワード：体験活動、連携、保育者養成

2023年1月6日受理（理論）

はじめに

幼児期の体験活動が児童期以降の行動や発育に影響を与えているという先行研究は多く報告されている。体験活動について、2016年度の文部科学白書¹では生活・文化体験活動の例として『放課後に行われる遊びやお手伝い、野遊び、スポーツ、部活動、地域や学校で行われる行事』、社会体験活動の例として『ボランティア活動や職場体験活動、インターンシップ』、自然体験活動の例として『登山やキャンプ、ハイキング等といった野外活動、星空観察や動植物観察といった自然・環境に係る学習活動』を挙げている。しかし、保育所・幼稚園・認定こども園（以下、「保育所等」と記す）において報告されている研究の多くは「自然体験活動」によるもので、「生活・文化体験活動」や「社会体験活動」に関する研究の報告は確認できなかった。ここでは、体験活動の意義が謳われているものの、その実態や実施を妨げる課題などの検証はできていない。さらに園外の体験活動の実施に際して

は、各都道府県や市町村の行っている支援事業の内容や園の立地によって実施内容や回数も異なってくると考えられることから全国的な調査ではなく、特定の地方における実態調査をもとに、地域ごとに体験活動を実施するための課題整理を行うことが有意義と考えられる。

そこで本研究では、島根県内の保育所等を対象に、園内および園外の体験活動の実施に関する実態調査を行うとともに、体験活動に関する課題を明らかにする。

1. 先行研究の整理

(1) 体験活動の実際

先行研究において、保育所等でのすべての体験活動の実態を示すものは無い。井上・無藤（2007）の実態調査では自然体験活動に注目し、園内の土や水とかかわる活動やままごと飼育栽培は高頻度で実施されているという報告とともに、実施頻度の低い活動と

*大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科

して、園外の田んぼや畑での作業・収穫、園外の自然に囲まれた場所での飯盒炊飯やお菓子作り、山登りやスキーといった目的が明確でプログラム化された活動は実施頻度が低いと述べている²。さらに両名は2009年にも動物飼育に関する実施実態を調査しており、動物飼育は既存の設備環境よりも保育者の意図によって実施の如何が変わってくるとしている³。木村・斉藤ら（2018）は島根県松江市内の幼稚園・保育所を対象に栽培活動の実態を調査し、「サツマイモ」、「ナス」、「ピーマン」、「キュウリ」、「トマト」が幼稚園・保育所とも多かったと報告している⁴。また、八木・井出（2019）も自然体験活動を取り入れた保育の実態とその効果を検証し、自然体験活動を活動の目的ごとに分類している⁵。体験活動の実施に際して、三重県内の保育所・幼稚園を対象とした調査では、外部と連携・協力しているのは66%で、地元の有志や自治体との連携・協力が52%とあり⁶、外部との連携・協力により積極的に体験活動を行っている園もあることがわかる。その他、CiNiiに掲載されている論文からは、「地域を知る手法の一つとしての自然散策」、「園に隣接した川の中の生き物探し」、「裏山の散策」、「田んぼでおたまじゃくしを捕まえる」⁷、「動物飼育」⁸といった自然体験活動がある。

(2) 園外活動の実際

辻川・吉住（2022）が小規模保育施設を対象に行った調査によると調査対象施設の90%が半径1.2km圏内での園外活動を行っており、園外活動では「体力作りや自然に触れる」ことのできる資源、「人と触れあう、または集団体験ができる」資源、「教養・文化・社会の事象を学ぶ」資源があることを示している⁹。このように体験活動に焦点を当てたものではなく、地域資源との結びつきを焦点に当てた研究はいくつかある。例えば、椎野（2019）は都市公園のトイレの有無に着目し、2歳児以下の幼児がいる場合は500m圏内に少なくとも一か所のトイレを設置することが必要と述べ、3歳以上児の幼児の場合は、トイレの設置自体が保育施設の利便性の向上と幼児全体の安全確保の担保に繋がると述べている¹⁰。浦田・後藤ら（2018）によると、公園などの公共的な遊び場に限らず、神社・図書館・警察などの公益施設や、商店街をはじめとする小売施設などの資源の活用が確認されたと報告されている。また、高齢者施設をはじめとする福祉施設や公

園・文化施設は児童の年齢が高まるにつれて利用頻度が増加していると述べている¹¹。

自然という予測することが困難なもの教材として使用する場合には慎重な対応が求められる。小林・岩田ら（2016）は園外での自然体験活動を実施する際に、自然体験活動の意義や子ども理解、事前学習の必要性の共通理解を図るための園内研修を実施することが効果的であったと述べており、その他、保育者が自然についての予備知識を持っておくということが必要であると述べている¹²。

2. 研究の目的

本研究は島根県内の保育所・幼稚園・認定こども園における体験活動の実態を調査するものである。島根県は「神々のふるさと」として知られており、独自の文化が根付いている。また島根半島・宍道湖中海ジオパークや隠岐ユネスコ世界ジオパークがあるように地域の自然や歴史文化、生物の多様性に触れやすい環境にあるといえる。筆者らが幼稚園や保育所に訪問する中で様々な取り組み実践を目にしており、地域ごとの多様な体験活動の実際が期待できる。しかし、その一方で、安全性の確保やより効果的な保育・教育を提供するための地域を始めとした外部との連携は必要不可欠であり、そのような体制を維持できない場合、体験活動を行うための空間はあるものの、それをうまく活用できない実際も明らかにすることができると考えられる。

I 研究の対象

対象は本学の位置する島根県内の保育所・幼稚園・認定こども園を対象とする。体験活動の実施にあたっては、都道府県や各市町村、社会福祉協議会等の助成金や補助金を予算に組み込み、活動を実施している場合があり、全国的な平均を示すより都道府県ごとに調査を行うことによって、その実態を的確に示すことができると考えられる。

II 研究方法

1. 調査の内容と回答者

調査は2022年7月21日～8月31日の間に、島根県のホームページ「県内保育所一覧」¹³「島根県認定こども園一覧（市町村別）」¹⁴、各市町村のホームページに記載されている地域型保育の事業所を除く保育所・幼稚園・認定こども園（全351施設）を対象に実施した。

調査用紙は1施設につき1冊送付し、園長・所長に回答を求めた。

2. 調査方法

調査は質問紙調査法によって実施した。質問紙は『質問紙デザインの技法 (2016)』¹⁵⁾に倣い作成し、希望者に対してのみ調査結果をE-mailで伝えることにした。

3. 質問項目

すべての回答者を対象とした質問項目は以下の通り。

- 質問1 施設・事業所の施設区分について当てはまるものに○をしてください。認定こども園・幼保園の場合は、さらに類型・部門を回答してください。
- 質問2 施設・事業所の所在地について当てはまるものに○をしてください。
- 質問3 施設・事業所の運営母体について当てはまるものに○をしてください。
- 質問4 次の活動の実施頻度として当てはまるものに○をしてください。
- 質問5 新型コロナウイルス感染症による「質問4」の活動の実施頻度の変化について、当てはまるものに○をしてください。
- 質問6 体験活動のために園内で飼育している動物種として当てはまるものを全て選んでください。
- 質問7 体験活動のために園内で栽培している植物種として当てはまるものを全て選んでください。
- 質問8 園外の体験活動において、利用したことのある施設や行事等について当てはまるものを全て選んでください。
- 質問9 園内の体験活動を実施するにあたって課題となっている事柄について、当てはまるものを全て選んでください。
- 質問10 園外の体験活動を実施するにあたって課題となっている事柄について、当てはまるものを全て選んでください。
- 質問11 園内および園外での体験活動を実施する際に、現在連携・協力を行っている団体やコミュニティ等について当てはまるものを全て選んでください。
- 質問12 園内および園外での体験活動を実施するため

に、今後連携・協力が必要と考えている団体やコミュニティ等について当てはまるものを全て選んでください。

質問13 園内および園外での体験活動で地域と連携・協力を行う時はどのような方が窓口（担当）になっていますか、当てはまるものに○をつけてください。

質問14 園内および園外での体験活動を実施する際、県や市町村、社会福祉協議会等の補助金・助成金を利用していますか。

質問1について、「保育所」、「幼稚園」、「幼保園」、「認定こども園」、「その他」を選択してもらう形をとった。認定こども園または幼保園を選択した場合はさらにその類型または部門の回答を求めた。なお、「幼保園」は2005年度から松江市が独自に設置した松江市の幼保一元化施設である。

質問2では、島根県内の市町村別に選択肢を設けたが、施設の立地によっても体験活動の内容に違いが出てくることを想定し、松江市・出雲市・安来市・浜田市・大田市・益田市においては2004年～2005年に行われた行政区の新設合併により合併した町村と元々属していた町村に分けて、選択肢を設けた。質問3では、「公立・国立」または「私立」の回答を求めた。

質問4と5の項目1～23は井上・無藤（2007）が使用した自然体験活動の項目を使用した。社会体験活動や生活・文化体験活動は浦田・後藤ら（2018）の調査を参考に項目を考え、独自に設定した。項目1～23を自然体験活動、24～29を生活・文化体験活動、30～43を社会体験活動の項目として設定した。但し、項目22と23について、実施場所を明確にするため、「園外で」と言葉を足した。質問4は井上・無藤（2007）の調査と同様に、「1：実施したことはない」、「2：年に1回程度」、「3：学期に1回程度」、「4：学期に数回」、「5：月に数回」、「6：週に数回」、「7：毎日」の7件法で回答を求めた。質問5は「1：実施しなくなった」、「2：頻度が大きく下がった」、「3：頻度がやや下がった」、「4：変わらなかった」、「5：頻度がやや上がった」、「6：頻度が大いに上がった」の6件法で回答を求めた。

質問6は井上・無藤（2009）の調査で明らかとなった動物種を項目として使用した。質問7は、木村・斉藤ら（2018）の調査で明らかとなった植物種に「花」

を加え、花と果物にはその種類の回答を求めた。

質問8では、園外の体験活動で利用したことのある施設や地域の催しや行事を体験活動として利用しているかどうか選択式で回答を求めた。施設の分類については、文化芸術振興基本法、博物館法で定められているが、ひとつの施設の中で複数の機能をもつ場合があり、また、利用者からは名称のみではどのような施設なのか判然としない場合がある。そして、地域によっては施設の役割が様々であることを考慮して分類した。島根県東部に多い古墳など古代の遺構、中世の城及び城跡、近代の洋館などはまとめて「歴史的建造物（神社・仏閣を含む）」とした。一方、実物の展示を主とし、資料収集、研究、教育普及活動を行う施設は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学などの分野ごとに分類をした。

質問9と10では園内および園外での体験活動を実施する際の課題を選択式で回答を求めた。「体験活動の意義や子ども理解のための研修が十分でない」、「体験活動に関する内容の保育者の知識不足」、「体験活動を実施するための職員数が十分でない」、「体験活動実施のためのリスク管理」、「体験活動の実施のための予算が十分でない」、「行事に追われて、体験活動のための時間がとれない」、「体験活動の実施のための設備や教材が足りない」、「その他」、「特に課題はない」を共通項目とし、質問9には「体験活動の実施のための空間の広さが足りない」を、質問10には「体験活動を実施するための空間がない、または距離が遠い」を加えた。質問11・12では体験活動を行うための地域との連携先を、「地元の有志」、「地元の自治会」、「保護者（PTA等）」、「農業者・漁業者等」、「警察署や消防署などの公益施設の職員」、「ボランティア団体」、「企業」、「行政」、「大学・短期大学」、「大学・短期大学の学生」、「その他」と「連携や協力を行っていない」（質問12では「連携や協力を必要としていない」）の項目から選択して回答を求めた。質問13では保育所等における地域との連携のための窓口としての担当者について「園長・所長」、「主任保育者」、「クラス担任」、「特別に設けた地域連携のための担当者」、「その他」、「担当者を決めていない」、「担当はいない」の選択肢から回答を求めた。質問14では自然体験活動、生活・文化体験活動、社会体験活動を行う上で補助金や助成金を利用しているかどうかを「利用している」、「利用していない」、「体験活動を行っていない」の中から回

答を求めた。また、それぞれの体験活動として、2016年度文部科学白書の例を質問紙に示した。

また、体験活動における具体的な地域連携の内容、体験活動による効果についてのインタビュー調査に今後協力していただける保育所等においては、その施設名と担当者名を記述していただくよう求めた。

4. データの分析方法

質問4で得られた実施頻度について自然体験活動、生活・文化体験活動、社会体験活動ごとに平均値をとる。さらに細かく体験活動の実施頻度を見るために質問4の各項目について施設区分、施設の所在地、運営母体ごとに分散分析を行う。Covid-19による実施頻度の変化については散布図を作成し、頻度の下がった体験活動を調査する。

園内で飼育している動物種や体験活動のために栽培している植物種は質問6～7の回答をもとに施設区分、運営母体ごとに回答件数と割合を表に示し、特徴を考察する。質問8は地域によって差が出るのが考えられるため、地域ごとに回答件数と割合を示し、特徴を考察する。

質問9～10に関しては施設種別ごとに回答件数と割合を示す。なお、「予算が十分でない」の回答については、質問14の回答から補助金や助成金があるものの、予算が十分でないと回答した場合の項目を「予算が十分でない（あり）」、補助金や助成金がなく、予算が十分でないと回答している場合の項目を「予算が十分でない（なし）」とした。また、園外の体験活動実施のための課題として空間や活動場所までの距離があることから、「体験活動を実施するための空間がない、または距離が遠い」と回答している地域ごとの割合を図表に示す。

体験活動実施のための他機関や団体との連携の実態については、質問11～12の回答件数と割合を地域別に示し、地域課題を考察することとする。

5. 倫理的配慮

本研究の実施にあたり、依頼文および質問紙に研究の趣旨や個人情報への遵守を明記し、調用紙の解答をもって、調査参加への同意を行ったと見なした。また、質問紙はすべて整理番号に従って処理し、個々の施設や回答者が判別できないように配慮した。

Ⅲ 結果

1. 回答者の属性

質問紙を送付した結果、220施設から回答があり、62.6%の回収率であった。回答のあった施設種別の内訳は保育所が145施設、幼稚園39施設、認定こども園（保育所型）19施設、認定こども園（幼稚園型）2施設、認定こども園（幼保連携型）3施設、幼保園（保育部門）2施設、幼保園（幼稚園部門）3施設であった。幼保園（保育部門）を認定こども園（保育所型）、幼保園（幼稚園部門）を認定こども園（幼稚園型）に含める。その他、認定こども園としか回答しなかったものが2施設、無回答が2施設であった。松江市・出雲市・安来市・浜田市・大田市・益田市においては行政区の新設合併により合併した町村と元々属していた町村に分けて、選択肢を設けたが、誤答が目立ったため、分析は合併後の市毎に行うこととする。市町村毎の回収率と質問1～3の回答を表1に示す。なお、松江市の幼稚園は国立1施設を公立に含んでいる。さらに、質問3について松江市の認定こども園で1施設、出雲市の保育所で3施設、雲南市の保育所1施設、益田市の保育所1施設、邑南町の保育所1施設が無回答であった。雲南市において質問1を無回答が1施設あった。

表1 市町村別の発送数と回答数

地域 [発送数]【回収率】	回答施設数 (総数) (公立/私立)		
	保育所	幼稚園	認定
松江市 [95]【69.4%】	40 (7/33)	18 (17/1)	8 (6/1)
出雲市 [78]【71.7%】	41 (3/35)	15 (15/0)	0
安来市 [18]【55.5%】	1 (0/1)	1 (1/0)	8 (7/1)
雲南市 [22]【54.5%】	4 (3/0)	1 (1/0)	6 (6/0)
浜田市 [30]【72.7%】	12 (0/12)	3 (3/0)	1 (0/1)
大田市 [21]【57.1%】	9 (6/3)	1 (1/0)	2 (0/2)
益田市 [33]【45.4%】	12 (1/11)	0	3 (0/3)
江津市 [10]【80.0%】	5 (1/4)		3 (0/3)
飯南町 [4]【75.4%】	3 (3/0)		
吉賀町 [4]【50.0%】	2 (0/2)		
美郷町 [2]【50.0%】	1 (0/1)		
奥出雲町 [7]【57.1%】	4 (0/4)		
邑南町 [9]【77.7%】	7 (0/6)		
川本町 [3]【33.3%】	1 (0/1)		
津和野町 [3]【0.0%】	0		
海士町・西ノ島町・知夫村 [4]【75.0%】	3 (1/2)		
隠岐の島町 [8]【50.0%】	4 (2/2)		0

2. 体験活動の実施頻度

今回の調査では、質問4において項目1～23を自然体験活動、24～29を生活・文化体験活動、30～43を社会体験活動の項目として設定している。それぞれの活動の平均値を図1～3（市町村別体験活動実施頻度）に示す。

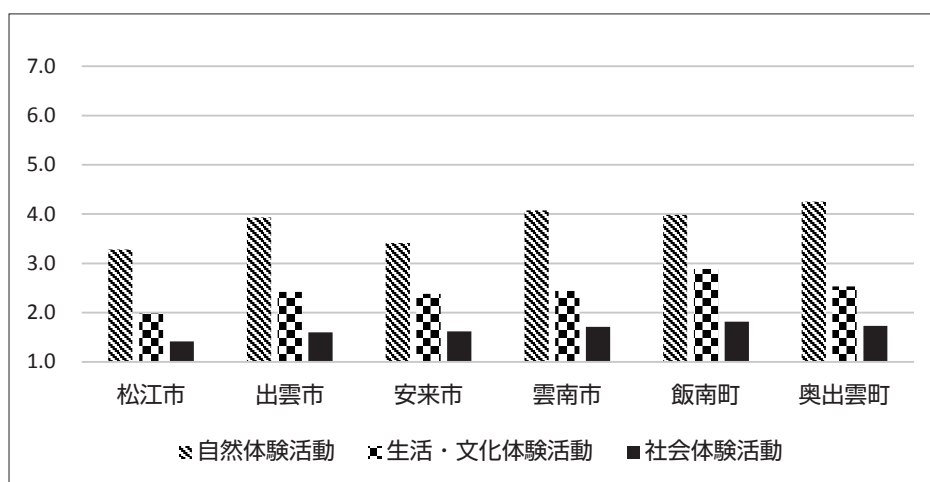


図1 市町村別体験活動実施頻度 (東部地域)

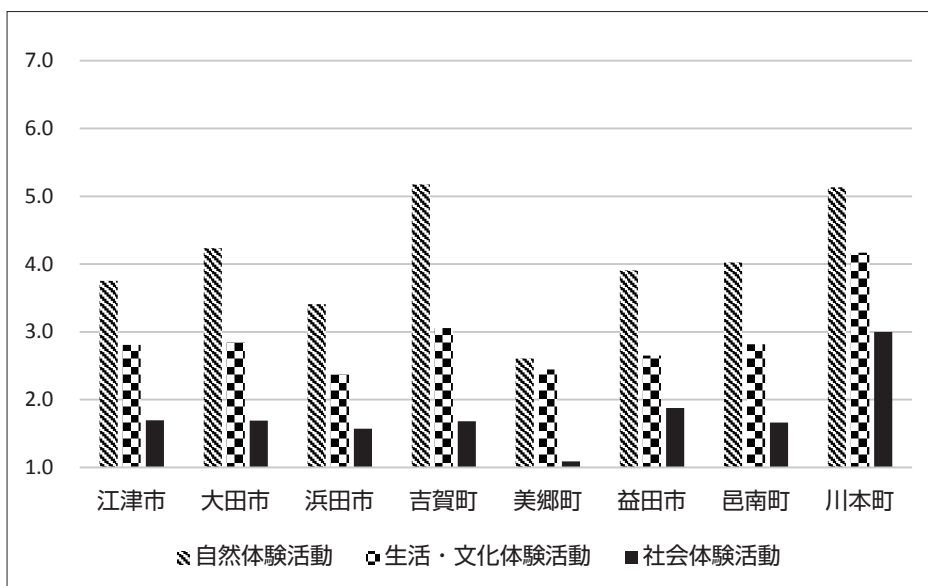


図2 市町村別体験活動実施頻度 (西部地域)

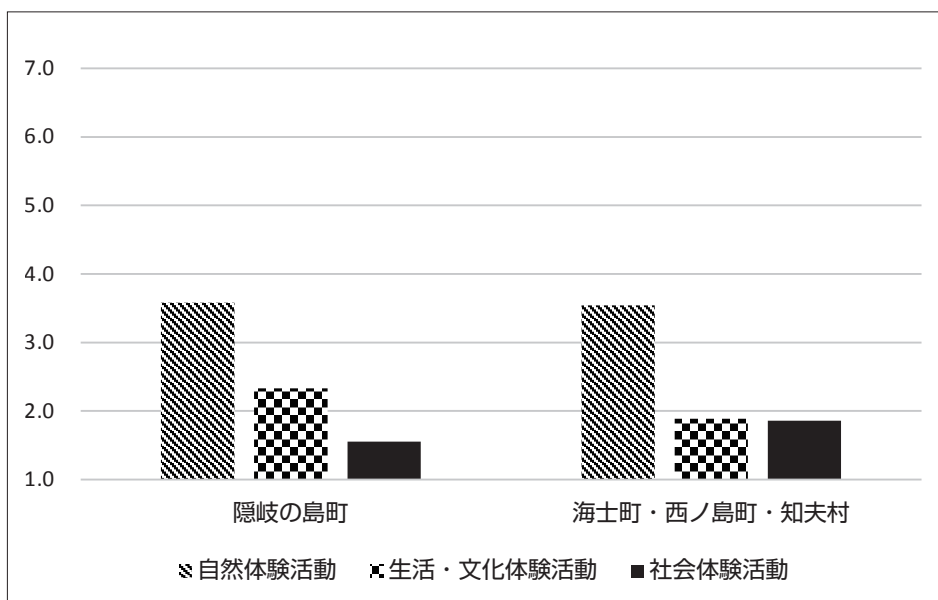


図3 市町村別体験活動実施頻度 (隠岐地域)

図1～3より各地域において、生活・文化体験活動や社会体験活動と比べて、自然体験活動が多く実施されていることがわかる。自然体験活動はさらに1～43の各活動の実施頻度について、公立私立、所在地、施設種別間の平均値(小数第三位を四捨五入)を表2～7に、分散分析の結果有意差のあった項目を表8～10に示す。なお、所在地については、市町によって施設数そのものの差が大きいため、松江市・出雲市・安来市・雲南市の差、浜田市・大田市・益田市・江津市の

差、東部(松江市、出雲市、安来市、雲南市、飯南町、奥出雲町)・西部(浜田市、大田市、益田市、江津市、吉賀町、美郷町、邑南町、川本町)・隠岐(隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)の差をみる。また、公立には国立1施設を含む。(*:p<.05 **:p<.01 ***:p<.001、地域①:松江市・出雲市・安来市・雲南市、地域②:浜田市・大田市・益田市・江津市、地域③:東部・西部・隠岐)

表2 自然体験活動の実施頻度の平均

質問項目	公立	私立	保育	幼稚	認定
1. 室内で、体験した自然を題材にした表現遊びをする。	4.41	4.12	4.10	4.28	4.70
2. 室内で、自然を主題にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	5.83	5.48	5.56	5.66	5.93
3. 室内で、自然のもの（動植物や石・砂などの自然物）を室外から持ち帰って遊ぶ。	5.52	4.91	4.94	5.49	5.71
4. 園庭の自然のもの（動植物や石・砂などの自然物）を使って、その場で遊ぶ。	6.45	6.36	6.33	6.56	6.45
5. 園内で飼育栽培している動植物の世話をしたり、観察する。	6.78	6.16	6.20	6.90	6.48
6. ドングリなど野外の植物の実を持ち帰り、栽培する。	2.63	2.75	2.63	2.72	3.03
7. おたまじゃくしなど野外でとってきた小動物を持ち帰り、飼育する。	4.63	4.21	4.24	4.51	4.60
8. 園内で栽培している野菜や木の実を食べたり、飼育動物の餌にする。	4.94	4.92	5.03	4.83	4.67
9. 園内で生ごみや落ち葉、雑草などを利用して堆肥や腐葉土を作り、栽培に利用する。	1.65	1.77	1.75	1.66	1.79
10. 園外の自然に囲まれたところで、鬼ごっこなどの身体を動かす遊びをする。	4.37	4.95	4.86	4.22	4.68
11. 園外の自然に囲まれたところで、ボールなどの道具を使った運動遊びをする。	3.44	4.08	4.02	3.46	3.37
12. 園外の自然に囲まれたところで、滑り台やアスレチックなどの固定遊具を使って遊ぶ。	3.78	4.06	3.91	3.85	4.13
13. 園外の自然に囲まれたところで、山登りやスキー、水泳などの目的の明確な活動をする。	2.07	2.29	2.26	1.95	2.30
14. 園外の自然に囲まれたところで、レクリエーションゲームやキャンプファイヤーなどをする。	1.51	1.67	1.63	1.54	1.63
15. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を観察したり、採集する。	4.47	4.58	4.56	4.37	4.61
16. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で遊ぶ。	4.47	4.57	4.56	4.34	4.65
17. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で表現遊びをする。	3.26	3.37	3.38	3.08	3.21
18. 園外の自然に囲まれたところで、一定範囲内を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ。	4.31	4.68	4.66	4.17	4.58
19. 園外の自然に囲まれたところで、自然を主題にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	2.04	2.52	2.48	2.05	2.39
20. 園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなど調理をしてその場で遊ぶ。	1.18	1.63	1.55	1.10	1.55
21. 田んぼや畑で作業をしたり、収穫したりしながら、その場でゆったりと遊ぶ。	3.33	3.07	3.20	3.20	3.20
22. 園外でネイチャーゲームなどの自然（動植物や自然物、自然の事象）と五感で触れ合うゲームをする。	1.81	1.89	1.94	1.70	1.68
23. 園外で自然との触れ合いが目的のプログラム（例：自然体験の専門家が提供するもの、教室など）をする。	1.42	1.53	1.54	1.38	1.38

表3 生活・文化体験活動の実施頻度の平均

質問項目	公立	私立	保育	幼稚	認定
24. 神社のお参りなど日本の文化に触れる活動を行う。	2.21	2.30	2.36	1.93	2.10
25. 園内で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。	1.84	2.11	2.06	1.70	2.20
26. 園外で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。	1.45	1.64	1.61	1.37	1.73
27. 地域の夏祭りなどの行事へ参加する。	1.67	1.76	1.73	1.54	1.84
28. 園内で七夕などの季節の行事を題材にした表現遊びをする。	3.04	2.81	2.89	2.78	2.97
29. 園内で七夕などの季節の行事を題材にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	3.85	3.63	3.68	3.71	3.87

表4 社会体験活動の実施頻度の平均

質問項目	公立	私立	保育	幼稚	認定
30. 小学生との触れ合いや小学校の行事へ参加する。	2.83	2.55	2.59	2.83	2.77
31. 高齢者との触れ合いや高齢者施設の行事へ参加する。	2.12	2.42	2.31	2.10	2.50
32. 歴史資料館や美術館などに見学に行く。	1.32	1.53	1.44	1.33	1.61
33. 商店街や商店に行き、買い物を行う。	1.75	1.74	1.75	1.73	1.68
34. 図書館に行き、好きな本を読んだり、絵本を見たりする。	1.43	1.47	1.51	1.34	1.32
35. 公民館や交流センターでの催しに参加し、季節の行事や地域の伝統行事にふれる。	1.95	1.81	1.77	1.78	2.30
36. 地域のマルシェやフリーマーケットに参加し、その活動を題材にした遊びを園内で行う。	1.04	1.09	1.09	1.02	1.00
37. 中学生との触れ合いや中学校の行事へ参加する。	1.95	1.92	1.92	1.85	2.13
38. 高校生との触れ合いや高校の行事へ参加する。	1.43	1.65	1.59	1.32	1.71
39. 警察署や消防署などの公益施設で働く人の仕事を体験できる活動をする。	1.40	1.61	1.53	1.30	1.74
40. 商店街や商店に行き、そこで働く人や仕事を題材にした遊びを園内で行う。	1.37	1.35	1.35	1.29	1.45
41. 図書館に行き、そこで働く人や仕事を題材にした遊びを園内で行う。	1.02	1.08	1.07	1.00	1.06
42. 警察署や消防署、郵便局などで働く人やその仕事を題材にした遊びを園内で行う。	1.34	1.52	1.46	1.27	1.58
43. 地域のマルシェやフリーマーケットに参加し、出店の手伝いをする。	1.01	1.03	1.03	1.00	1.00

表5 自然体験活動の実施頻度（地域別）の平均

質問項目	松江市	出雲市	安来市	雲南市	浜田市	大田市	益田市	江津市	隠岐	東部	西部
1. 室内で、体験した自然を題材にした表現遊びをする。	4.08	4.27	3.82	4.36	3.71	4.55	4.46	4.33	4.86	4.19	4.24
2. 室内で、自然を主題にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	5.39	5.77	4.73	6.18	5.25	6.00	5.71	6.00	5.58	5.59	5.67
3. 室内で、自然のもの（動植物や石・砂などの自然物）を室外から持ち帰って遊ぶ。	4.76	5.49	4.91	6.25	4.47	5.67	5.29	5.63	5.00	5.19	5.02
4. 園庭の自然のもの（動植物や石・砂などの自然物）を使って、その場で遊ぶ。	6.24	6.62	5.82	6.92	6.06	6.83	6.43	6.50	6.00	6.41	6.39
5. 園内で飼育栽培している動植物の世話をしたり、観察する。	6.15	6.77	5.55	7.00	6.00	7.00	5.93	6.50	6.43	6.43	6.23
6. ドングリなど野外の植物の実を持ち帰り、栽培する。	2.43	2.61	2.36	3.82	2.81	2.92	2.53	2.71	2.00	2.61	2.93
7. おたまじゃくしなど野外でとってきた小動物を持ち帰り、飼育する。	3.88	4.70	4.64	5.36	3.31	4.75	4.27	4.13	4.29	4.41	4.23
8. 園内で栽培している野菜や木の実を食べたり、飼育動物の餌にする。	4.30	5.34	4.18	5.64	4.67	5.67	4.93	5.00	5.29	4.83	5.18
9. 園内で生ごみや落ち葉、雑草などを利用して堆肥や腐葉土を作り、栽培に利用する。	1.42	1.72	1.70	2.18	1.81	2.25	1.79	1.71	1.00	1.61	2.12
10. 園外の自然に囲まれたところで、鬼ごっこなどの身体を動かす遊びをする。	4.12	5.09	4.64	4.83	4.50	5.50	5.27	4.63	3.71	4.59	5.03
11. 園外の自然に囲まれたところで、ボールなどの道具を使った運動遊びをする。	3.15	4.34	2.73	3.64	3.93	4.42	4.50	4.25	3.43	3.62	4.30
12. 園外の自然に囲まれたところで、滑り台やアスレチックなどの固定遊具を使って遊ぶ。	3.47	4.36	3.64	3.75	4.27	4.92	4.23	3.88	2.71	3.83	4.32
13. 園外の自然に囲まれたところで、山登りやスキー、水泳などの目的の明確な活動をする。	1.52	2.54	1.91	2.82	2.27	2.42	2.60	2.38	2.14	2.08	2.51
14. 園外の自然に囲まれたところで、レクリエーションゲームやキャンプファイヤーなどをする。	1.23	1.89	1.27	1.21	1.67	1.58	1.73	1.88	2.00	1.52	1.75
15. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を観察したり、採集する。	4.00	4.89	4.36	4.55	4.00	5.58	4.73	3.75	4.71	4.44	4.65
16. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で遊ぶ。	3.97	4.90	4.09	5.08	3.80	5.58	5.07	3.75	4.29	4.45	4.69
17. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で表現遊びをする。	3.00	3.50	2.60	3.46	2.60	4.40	3.31	3.57	3.67	3.22	3.50
18. 園外の自然に囲まれたところで、一定範囲内を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ。	3.86	4.83	4.27	5.00	4.31	5.91	5.14	4.13	4.29	4.38	4.92
19. 園外の自然に囲まれたところで、自然を主題にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	1.88	2.35	2.09	2.83	2.13	2.18	2.67	2.75	2.33	2.21	2.72
20. 園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなど調理をしてその場で遊ぶ。	1.08	1.65	1.09	1.25	1.33	1.75	2.00	2.13	1.00	1.33	1.82
21. 田んぼや畑で作業をしたり、収穫したりしながら、その場でゆったりと遊ぶ。	2.61	3.90	2.91	4.00	2.31	3.50	3.20	3.00	3.23	3.22	3.07
22. 園外でネイチャーゲームなどの自然（動植物や自然物、自然の事象）と五感で触れ合うゲームをする。	1.47	2.00	1.10	1.83	1.69	2.18	2.17	1.75	2.43	1.73	2.09
23. 園外で自然との触れ合いが目的のプログラム（例：自然体験の専門家が提供するもの、教室など）をする。	1.27	1.61	1.09	1.25	1.50	1.58	1.62	1.75	1.43	1.43	1.63

表6 生活・文化体験活動の実施頻度（地域別）の平均

質問項目	松江市	出雲市	安来市	雲南市	浜田市	大田市	益田市	江津市	隠岐	東部	西部
24. 神社のお参りなど日本の文化に触れる活動を行う。	1.86	2.37	2.36	2.25	2.19	2.92	2.47	1.86	2.29	2.14	2.53
25. 園内で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。	1.28	1.94	2.00	2.00	3.07	2.75	2.46	3.75	1.86	1.64	3.02
26. 園外で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。	1.12	1.73	1.36	1.83	1.50	1.92	1.86	1.67	1.43	1.44	1.97
27. 地域の夏祭りなどの行事へ参加する。	1.37	1.75	1.91	2.00	1.40	1.92	2.29	1.75	1.71	1.64	1.90
28. 園内で七夕などの季節の行事を題材にした表現遊びをする。	2.74	2.88	2.91	2.91	2.53	3.27	3.07	3.00	2.57	2.85	2.97
29. 園内で七夕などの季節の行事を題材にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	3.49	3.87	3.64	3.82	3.44	4.33	3.67	4.13	3.00	3.70	3.82

表7 社会体験活動の実施頻度（地域別）の平均

質問項目	松江市	出雲市	安来市	雲南市	浜田市	大田市	益田市	江津市	隠岐	東部	西部
30. 小学生との触れ合いや小学校の行事へ参加する。	2.23	2.77	2.27	3.42	2.33	2.91	3.40	2.25	3.14	2.60	2.77
31. 高齢者との触れ合いや高齢者施設の行事へ参加する。	1.92	2.39	2.64	2.58	2.07	3.67	2.50	2.14	2.14	2.21	2.54
32. 歴史資料館や美術館などに見学に行く。	1.36	1.51	1.55	1.08	1.67	1.27	1.87	1.25	1.57	1.41	1.52
33. 商店街や商店に行き、買い物を行う。	1.65	1.69	1.46	2.00	1.50	1.50	2.08	2.00	1.71	1.70	1.86
34. 図書館に行き、好きな本を読んだり、絵本を見たりする。	1.40	1.28	1.55	1.17	1.56	1.42	1.86	1.25	1.43	1.39	1.57
35. 公民館や交流センターでの催しに参加し、季節の行事や地域の伝統行事にふれる。	1.62	1.75	2.36	2.08	1.67	2.27	2.23	1.88	1.29	1.79	2.07
36. 地域のマルシェやフリーマーケットに参加し、その活動を題材にした遊びを園内で行う。	1.02	1.04	1.00	1.00	1.13	1.00	1.08	1.25	1.14	1.03	1.15
37. 中学生との触れ合いや中学校の行事へ参加する。	1.65	2.00	1.64	2.42	1.81	2.08	2.57	1.88	2.14	1.86	2.07
38. 高校生との触れ合いや高校の行事へ参加する。	1.36	1.65	1.27	1.75	1.38	1.42	2.00	1.50	2.14	1.52	1.59
39. 警察署や消防署などの公益施設で働く人の仕事を体験できる活動をする。	1.30	1.50	1.80	1.50	1.69	1.92	1.40	1.63	1.71	1.45	1.68
40. 商店街や商店に行き、そこで働く人や仕事を題材にした遊びを園内で行う。	1.14	1.33	1.18	1.42	1.44	1.75	1.43	2.38	1.29	1.25	1.61
41. 図書館に行き、そこで働く人や仕事を題材にした遊びを園内で行う。	1.05	1.06	1.00	1.00	1.19	1.00	1.07	1.00	1.00	1.05	1.08
42. 警察署や消防署、郵便局などで働く人やその仕事を題材にした遊びを園内で行う。	1.19	1.52	1.36	1.50	1.69	1.08	1.43	2.38	1.86	1.36	1.59
43. 地域のマルシェやフリーマーケットに参加し、出店の手伝いをする。	1.00	1.02	1.00	1.00	1.00	1.00	1.29	1.00	1.00	1.01	1.06

自然体験活動の中でも表2に示されるように、園内での動植物の世話や自然物や自然を題材にした活動はいずれも実施頻度が高く、園外において飯ごう炊飯やお菓子作り、ネイチャーゲームなど何らかの目的をもった活動の頻度は低い傾向が見られた。生活・文化体験活動においては、園内で季節の行事を題材にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする頻度が

最も高く、園内や園外で地域の伝統・芸能に実際に触れる活動の実施頻度は少ない傾向にあった。社会体験活動においては、小学生や高齢者との触れ合いや行事への参加が年に1回程度の頻度で行われていることがわかった。ただ、同じ人との触れ合いであるものの、中学生や高校生との触れ合いは小学生や高齢者と比較すると実施頻度は低く示されている。

表 8 自然体験活動の実施頻度の分散分析の結果

質問項目	分散分析で有意差が出たもの				
	幼保	公私	地域①	地域②	地域③
1. 室内で、体験した自然を題材にした表現遊びをする。	認>保* (F=3.90)				
2. 室内で、自然を主題にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。	認>保* (F=3.90)		雲南>松江* 出雲>安来** 雲南>安来** (F=2.46)		
3. 室内で、自然のもの(動植物や石・砂などの自然物)を室外から持ち帰って遊ぶ。	認>保** (F=3.90)	公>私*** (F=3.89)	出雲>松江* 雲南>出雲** (F=6.32)		
4. 園庭の自然のもの(動植物や石・砂などの自然物)を使って、その場で遊ぶ。			出雲>松江* 雲南>松江* 出雲>安来* 雲南>安来** (F=5.91)		
5. 園内で飼育栽培している動植物の世話をしたり、観察する。	幼>保** (F=3.89) 幼>認* (F=3.98)	公>私*** (F=3.88)	出雲>松江* 出雲>安来* 雲南>安来* (F=4.78)		
8. 園内で栽培している野菜や木の実を食べたり、飼育動物の餌にする。			出雲>松江** (F=3.91)		
9. 園内で生ごみや落ち葉、雑草などを利用して堆肥や腐葉土を作り、栽培に利用する。			出雲>松江** 出雲>安来* (F=4.84)		西部>東部* (F=4.00)
10. 園外の自然に囲まれたところで、鬼ごっこなどの身体を動かす遊びをする。	保>幼** (F=3.89)	私>公* (F=3.88)	出雲>松江* (F=2.57)		
11. 園外の自然に囲まれたところで、ボールなどの道具を使った運動遊びをする。	保>幼* (F=3.89)	私>公* (F=3.89)	出雲>松江** 雲南>松江** (F=8.35)		西部>東部* (F=2.84)
12. 園外の自然に囲まれたところで、滑り台やアスレチックなどの固定遊具を使って遊ぶ。			出雲>松江** 出雲>安来* (F=8.67)		
13. 園外の自然に囲まれたところで、山登りやスキー、水泳などの目的の明確な活動をする。			出雲>松江** (F=3.75)		
14. 園外の自然に囲まれたところで、レクリエーションゲームやキャンプファイヤーなどをする。			出雲>松江** (F=5.12)		
15. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの(動植物や自然物)を観察したり、採集する。				大田>浜田* 大田>江津* (F=4.84)	
16. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの(動植物や自然物)を使って、その場で遊ぶ。			出雲>松江** (F=4.53)	大田>浜田** 益田>浜田* 大田>江津* (F=6.29)	
17. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの(動植物や自然物)を使って、その場で表現遊びをする。				大田>浜田* (F=2.50)	
18. 園外の自然に囲まれたところで、一定範囲内を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ。	保>幼* (F=3.89)		出雲>松江** (F=5.70)	大田>浜田** 大田>江津** (F=6.84)	西部>東部* (F=2.89)
19. 園外の自然に囲まれたところで、自然を主題にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。		私>公* (F=3.89)	出雲>松江** 雲南>松江* (F=7.90)		
20. 園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなど調理をしてその場で遊ぶ。	保>幼** (F=3.89) 認>幼** (F=3.98)	私>公** (F=3.89)	出雲>松江* 出雲>安来* (F=4.62)		西部>東部** (F=6.25)
21. 田んぼや畑で作業をしたり、収穫したりしながら、その場でゆったりと遊ぶ。			出雲>松江** 出雲>安来* (F=5.17)		

※ $p<.05$ の場合に「*」、 $p<.01$ の場合に「**」を記した。

表 9 生活・文化体験活動の実施頻度の分散分析の結果

質問項目	分散分析で有意差が出たもの				
	幼保	公私	地域①	地域②	地域③
25. 園内で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。			出雲>松江** 安来>松江* 雲南>松江* (F=7.15)		西部>東部*** 西部>隠岐* (F=26.32)
26. 園外で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。			出雲>松江** 雲南>松江** (F=9.16)		西部>東部** (F=6.61)
27. 地域の夏祭りなどの行事へ参加する。			出雲>松江* 雲南>松江* (F=5.53)		

※ $p<.05$ の場合に「*」、 $p<.01$ の場合に「**」、 $p<.001$ の場合に「***」を記した。

表10 社会体験活動の実施頻度の分散分析の結果

質問項目	分散分析で有意差が出たもの				
	幼保	公私	地域①	地域②	地域③
30. 小学生との触れ合いや小学校の行事へ参加する。			出雲>松江* 雲南>松江** 雲南>安来* (F=6.29)	益田>浜田** 益田>江津* (F=4.75)	
31. 高齢者との触れ合いや高齢者施設の行事へ参加する。				大田>浜田*** 大田>益田** 大田>江津** (F=9.34)	
32. 歴史資料館や美術館などに見学に行く。		私>公* (F=3.89)			
35. 公民館や交流センターでの催しに参加し、季節の行事や地域の伝統行事にふれる。	認>保** (F=3.90) 認>幼* (F=3.98)		安来>松江* (F=3.93)		西部>隠岐* (F=3.97)
36. 地域のマルシェやフリーマーケットに参加し、その活動を題材にした遊びを園内で行う。					西部>東部* (F=3.59)
37. 中学生との触れ合いや中学校の行事へ参加する。	認>幼* (F=3.98)		出雲>松江* 雲南>松江*** 雲南>安来* (F=7.33)	益田>浜田* (F=3.43)	
38. 高校生との触れ合いや高校の行事へ参加する。	保>幼* (F=3.89) 認>幼* (F=3.98)				
39. 警察署や消防署などの公益施設で働く人の仕事を体験できる活動をする。	認>幼* (F=3.98)	私>公* (F=3.89)			
40. 商店街や商店に行き、そこで働く人や仕事を題材にした遊びを園内で行う。					西部>東部* (F=3.91)
42. 警察署や消防署、郵便局などで働く人やその仕事を題材にした遊びを園内で行う。			出雲>松江* (F=2.35)	江津>大田* (F=2.53)	

※ $p<.05$ の場合に「*」、 $p<.01$ の場合に「**」、 $p<.001$ の場合に「***」を記した。

表8より、保育所と比べて認定こども園の実施頻度が有意に高かったのは「1. 室内で体験した自然を題材にした表現遊びをする。」(F(1,161)=3.90, $p=.03$)、「2. 室内で、自然を主題にしたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。」(F(1,175)=3.90, $p=.04$)、「3. 室内で、自然のもの(動植物や石・砂などの自然物)を室外から持ち帰って遊ぶ。」(F(1,175)=3.90, $p=.004$)であった。幼稚園と比べて有意に高かったものは「20. 室外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなどを調理してその場で遊ぶ。」(F(1,181)=3.90, $p=.004$)であった。幼稚園が保育所や認定こども園の実施頻度に比べて有意に高かったのは、「5. 園内で飼育栽培している動植物の世話をしたり、観察する。」(幼稚園>保育所:F(1,184)=3.90, $p=.003$ 、幼稚園>認定こども園:F(1,68)=3.90, $p=.03$)であった。一方、保育所が幼稚園と比べて実施頻度が高かったものは、「10. 園外の自然に囲まれたところで、鬼ごっこなどの身体を動かす遊びをする。」(F(1,185)=3.90, $p=.006$)、「11. 園外の自然に囲まれたところで、ボールなどの道具を使った運動遊びをする。」(F(1,182)=3.90, $p=.04$)、「18. 園外の自然に囲まれたところで、一定範囲内を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったり遊ぶ。」(F(1,180)=3.90, $p=.02$)、

「20. 園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子づくりなど調理をしてその場で遊ぶ。」(F(1,181)=3.90, $p=.004$)であった。

公立・国立と私立を比較すると、公立・国立の方が有意に高かったものは、「3. 室内で、自然のもの(動植物や石・砂などの自然物)を室外から持ち帰って遊ぶ。」(F(1,215)=3.89, $p=.000$)、「5. 園内で飼育栽培している動植物の世話をしたり、観察する。」(F(1,216)=3.89, $p=.000$)であり、いずれも園内で行われる活動が有意に高かった。私立が公立・国立と比べて有意に高かったものは、「10. 園外の自然に囲まれたところで、鬼ごっこなどの身体を動かす遊びをする。」(F(1,217)=3.89, $p=.01$)、「11. 園外の自然に囲まれたところで、ボールなどの道具を使った運動遊びをする。」(F(1,213)=3.89, $p=.03$)、「19. 園外の自然に囲まれたところで、自然を主題にしいたお話を聞いたり、絵本を見たり、読んだりする。」(F(1,214)=3.89, $p=.04$)、「20. 園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなど調理してその場で遊ぶ。」(F(1,214)=3.89, $p=.001$)であり、いずれも園外で行われる活動が有意に高かった。

地域ごとに見ると、東部の出雲市と雲南市は他の東部の地域と比較すると、自然体験活動をより頻繁に行っていることが示された。特に差が見られな

かったのは「1. 室内で、体験した自然を題材にした表現遊びをする。」、「6. ドングリなど野外の植物の実を持ち帰り、栽培する。」、「7. おたまじゃくしなど野外でとってきた小動物を持ち帰り、飼育する。」、「22. 園外でネイチャーゲームなどの自然（動植物や自然物、自然の事象）と五感で触れ合うゲームをする。」、「23. 園外で自然との触れ合いが目的のプログラム（例：自然体験の専門家が提供するもの、教室など）をする。」のみであった。西部においては、大田市が西部の他の地域と比べて、「15. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を観察したり、採集する。」($F(3,47)=4.84$, 大田市>浜田市・江津市： $p=.01$)、「16. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で遊ぶ。」($F(3,46)=6.29$, 大田市>浜田市： $p=.003$, 大田市>益田市： $p=.04$, 大田市>江津市： $p=.01$)、「17. 園外の自然に囲まれたところで、自然のもの（動植物や自然物）を使って、その場で表現遊びをする。」($F(3,41)=2.50$, 大田市>浜田市： $p=.04$)、「18. 園外の自然に囲まれたところで、一定範囲内を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったり遊ぶ。」($F(3,45)=6.84$, 大田市>浜田市： $p=.001$, 大田市>江津市： $p=.003$)であった。東部と西部と隠岐を比較すると、西部の方が東部よりも「9. 園内で生ごみや落ち葉、雑草などを利用して堆肥や腐葉土を作り、栽培に利用する。」($F(2,211)=4.00$, $p=.03$)、「11. 園外の自然に囲まれたところで、ボールなどの道具を使った運動遊びをする。」($F(2,211)=2.84$, $p=.04$)、「18. 園外の自然に囲まれたところで、一定範囲内を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったり遊ぶ。」($F(2,210)=2.89$, $p=.03$)、「20. 園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなど調理してその場で遊ぶ。」($F(2,211)=6.25$, $p=.002$)の項目で有意に高かった。

表9より生活・文化体験活動は、幼稚園と保育所と認定こども園、公立・国立と私立とで有意な差は見られなかった。西部の地域では有意な差は見られなかったものの、東部の地域では、自然体験活動と同様に、出雲市や雲南市が他の地域と比べて「25. 園内で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。」($F(3,135)=7.15$, 出雲市>松江市： $p=.000$, 雲南市>松江市： $p=.03$)、「26. 園外で神楽などの地域の伝統・

芸能に触れる活動を行う。」($F(3,136)=7.57$, 出雲市>松江市： $p=.000$, 雲南市>松江市： $p=.005$)、「27. 地域の夏祭りなどの行事へ参加する。」($F(3,133)=5.53$, 出雲市>松江市： $p=.01$, 雲南市>松江市： $p=.01$)の実施頻度が高いことが示された。また、安来市が松江市と比べて、「25. 園内で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。」($F(3,135)=7.15$, $p=.04$)の実施頻度が高いことが示された。また西部は東部や隠岐と比べて「25. 園内で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。」($F(2,207)=26.32$, 出雲市>松江市： $p=.000$, 西部>東部： $p=.000$, 西部>隠岐： $p=.03$)の実施頻度が高く、東部に比べて「26. 園外で神楽などの地域の伝統・芸能に触れる活動を行う。」($F(2,206)=6.61$, $p=.000$)が高いことも示された。

表10より社会体験活動は、認定こども園が保育所より「35. 公民館や交流センターでの催しに参加し、季節の行事や地域の伝統行事にふれる。」($F(1,169)=3.90$, $p=.002$)の実施頻度が有意に高く、幼稚園と比べると、項目35 ($F(1,67)=3.98$, $p=.01$)に加え、「37. 中学生との触れ合いや中学校の行事に参加する。」($F(1,67)=3.98$, $p=.03$)、「38. 高校生との触れ合いや高校の行事へ参加する。」($F(1,68)=3.98$, $p=.01$)、「39. 警察署や消防署などの公益施設で働く人の仕事を体験できる活動をする。」($F(1,67)=3.98$, $p=.01$)の実施頻度が有意に高かった。また、保育所は幼稚園と比べて「38. 高校生との触れ合いや高校の行事へ参加する。」($F(1,180)=3.89$, $p=.04$)の実施頻度が高かった。

3. 新型コロナウイルスによる影響

新型コロナウイルスによる影響を検討するにあたり、質問4において、活動頻度を示す得点の平均が2未満の項目(9, 14, 20, 22, 23, 26, 27, 32~43)は分析から外すこととした。質問5において、新型コロナウイルスによる実施頻度の変化について尋ねているが、質問4において「1：実施したことはない」と回答し、質問5で実施頻度の減少を指す番号(1~3)を選択している回答は誤答と判断し回答から削除した。その後、項目1~43の回答の平均値をとったところ、最も頻度が下がったのは「31. 高齢者との触れ合いや高齢者施設の行事へ参加する。(1.7)」、次いで「30. 小学生との触れ合いや小学校の行事へ参加する。(2.3)」であった。その他の項目において平均

値が3.2～4.0であったことから、新型コロナウイルスによって全ての項目の活動頻度が下がっていることがわかる。これから、さらに減少の程度をより明らかにするため、質問4で「1：実施したことはない」

と回答し、質問5で「4：変わらなかった」と回答している回答を削除した。その上で、項目30,31の散布図を図4～5に示す。

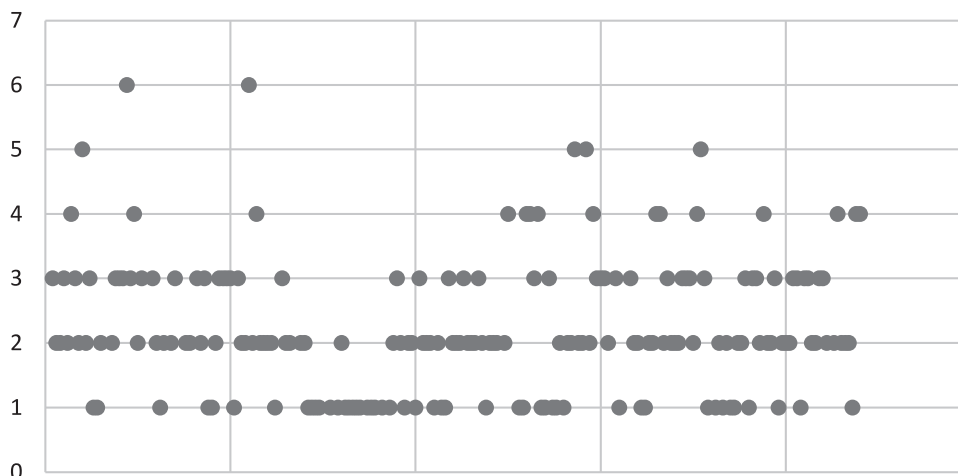


図4 項目30の新型コロナウイルスによる実施頻度の変化

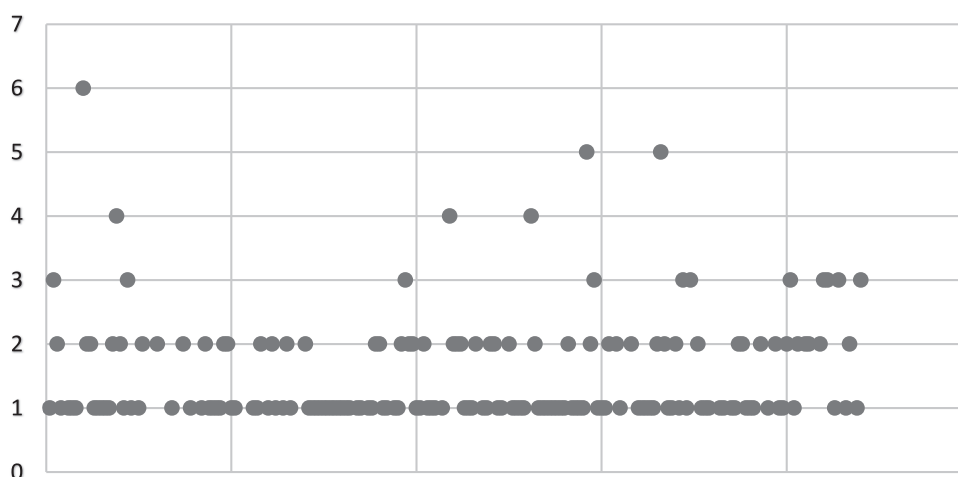


図5 項目31の新型コロナウイルスによる実施頻度の変化

4. 園内で飼育している動物種

園内で飼育している動物種について、全回答のうち2施設は園内で飼育を行わず園児が採取したものを観察、個人宅で飼育しているものを園に持参し観察などを行っているというものであった。最も飼育している割合が高いものは昆虫類（73%）で、次いでメダカ（60%）、おたまじゃくし（56%）であった。なお、ニ

ワトリ、ハムスター、チャボ、モルモット、犬を飼育している園はなかった。また日本海に面していることもあり、カニやエビ、ヤドカリ、貝類といった海辺の生き物を飼育している施設も見られた。体験活動のために飼育している動物種は表11の通り（私立幼稚園はサンプル数が1園のみであったため省略する）であった。

表11 体験活動のために飼育している動物種

カテゴリー		全体	飼育している動物種の回答件数と割合										
			保育所				幼稚園		認定こども園				
			公立 (n=28)		私立 (n=113)		公立 (n=38)		公立 (n=17)		私立 (n=13)		
脊椎動物	哺乳類	ウサギ	20	2	7.1%	7	6.2%	11	28.9%	0	0.0%	0	0.0%
	鳥類	ウズラ	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%
		小鳥	1	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	爬虫類	カメ	55	5	17.9%	23	20.4%	17	44.7%	7	41.2%	3	23.1%
		ヤモリ	1	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		トカゲ	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%
	両生類	おたまじゃくし	121	20	71.4%	59	52.2%	25	65.8%	11	64.7%	6	46.2%
		カエル	68	12	42.9%	21	18.6%	20	52.6%	11	64.7%	4	30.8%
		イモリ	4	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	1	5.9%	1	7.7%
		ウーパールーパー	4	1	3.6%	3	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	魚類	金魚	82	11	39.3%	40	35.4%	24	63.2%	6	35.3%	1	7.7%
		メダカ	129	16	57.1%	63	55.8%	27	71.1%	13	76.5%	10	76.9%
		熱帯魚	4	0	0.0%	2	1.8%	1	2.6%	1	5.9%	0	0.0%
		どじょう	6	1	3.6%	2	1.8%	1	2.6%	1	5.9%	1	7.7%
		ドロバエ	1	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		フナ	2	0	0.0%	1	0.9%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
無脊椎動物	節足動物	昆虫類	153	21	75.0%	77	68.1%	32	84.2%	13	76.5%	10	76.9%
		蝶の幼虫	65	5	17.9%	23	20.4%	25	65.8%	7	41.2%	5	38.5%
		カブトムシの幼虫	10	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	69.2%
	甲殻類	ザリガニ	86	11	39.3%	41	36.3%	26	68.4%	5	29.4%	3	23.1%
		カニ	7	3	10.7%	3	2.7%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
		エビ	2	0	0.0%	1	0.9%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
		ヤドカリ	1	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		カタツムリ	9	0	0.0%	7	6.2%	0	0.0%	1	5.9%	1	7.7%
	軟体類	貝	3	1	3.6%	1	0.9%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%

5. 園内で栽培している植物種

園内では様々な花が栽培されている。自由記述に「季節に合わせて植えている」とあったことから、年

中花で楽しめるような工夫が施されていると考えられる。回答のあった花や果樹を季節ごとに表12にまとめた。

表12 体験活動のために栽培している花や果樹

花												
春			夏				秋			冬～春		
アジサイ	カモミール		アサガオ オーシャンブルー ケイトウ ヒマワリ フウセンカズラ ヘチマ ホウキグサ ホウセンカ ラベンダー				アイ キンモクセイ コスモス			サイネリア スイートピー		
春～夏			夏～秋				秋～冬			冬～夏		
なでしこ ポピー			サルスベリ センニチコウ ユウガオ ルリマツリ				サザンカ			ノースポール		
春～秋						秋～春						
インパチェンス オジギソウ オシロイバナ サルビア セラニウム チューリップ トレニア ニチニチソウ ベゴニア ペチュニア ポーチュラカ メランポジウム						スイセン						
年中												
ピオラ マリーゴールド												
果樹												
春			夏				秋			冬～春		
			ブラックベリー ブルーベリー ラズベリー マルベリー クランベリー ジューンベリー 夏ミカン イチジク パッションフルーツ パイナップル ビワ ウメ サクランボ アンズ モモ スモモ ヤマモモ スイカ メロン ナツメ				ブドウ カキ 秋グミ ブルーベリー クリ カリン ザクロ アケビ			イチゴ キウイ ミカン キンカン プンタン ユズ レモン スダチ		
							秋～冬					
							リンゴ					

最も栽培されている花として、「アサガオ (93園、42.3%)」、次いで「ヒマワリ (72園、32.7%)」、「マリーゴールド (41園、18.6%)」、「チューリップ (30園、13.6%)」、「フウセンカズラ (25園、11.4%)」、「サルビア (23園、10.5%)」であった。果樹の中で最も栽培されているのは「スイカ (35園、15.9%)」、次いで「ブルーベリー (33園、15.0%)」、「イチゴ (20園、9.1%)」であった。

野菜は種まきから収穫までの時期が長く、季節ごとに示すことが困難なため、栽培しているものとその割

合を表13に示す。なお、回答件数が10園以下のものは表から除き、それらはハーブ類が8園、チャが6園、ズッキーニが5園、サトイモ、キャベツ、ラッカセイが3園、パプリカ、ブロッコリー (あすっこ含む)、ハウレンソウ、ネギ、モロヘイヤ、ゴマが2園、レタス、ソラマメ、アスパラガス、モロッコインゲン、スナップエンドウ、アロエ、クウシンサイ、オリーブ、サンショウが1園であった。その他、綿 (3園)、藍 (1園) なども見られた。

表13 体験活動のために栽培している野菜種

カテゴリー		全体 (N=209)		栽培している野菜種の回答件数と割合									
				保育所				幼稚園		認定こども園			
				公立 (n=28)		私立 (n=113)		公立 (n=38)		公立 (n=17)		私立 (n=13)	
根菜類	サツマイモ	181	86.6%	24	85.7%	94	83.2%	35	92.1%	17	100.0%	11	84.6%
	ジャガイモ	111	53.1%	16	57.1%	62	54.9%	26	68.4%	4	23.5%	3	23.1%
	ダイコン (二十日ダイコン含む)	101	48.3%	13	46.4%	49	43.4%	27	71.1%	7	41.2%	5	38.5%
	カブ	54	25.8%	8	28.6%	26	23.0%	10	26.3%	7	41.2%	3	23.1%
葉茎菜類	ニンジン	55	26.3%	6	21.4%	29	25.7%	14	36.8%	3	17.6%	3	23.1%
	タマネギ	101	48.3%	13	46.4%	52	46.0%	25	65.8%	6	35.3%	5	38.5%
	シソ (赤紫蘇・青紫蘇)	14	6.7%	4	14.3%	4	3.5%	3	7.9%	3	17.6%	0	0.0%
果菜類	ナス	160	76.6%	19	67.9%	91	80.5%	25	65.8%	13	76.5%	12	92.3%
	ピーマン	193	92.3%	24	85.7%	107	94.7%	33	86.8%	17	100.0%	12	92.3%
	キュウリ	195	93.3%	24	85.7%	108	95.6%	34	89.5%	17	100.0%	12	92.3%
	トマト	191	91.4%	25	89.3%	102	90.3%	37	97.4%	16	94.1%	11	84.6%
	トウモロコシ	71	34.0%	9	32.1%	34	30.1%	16	42.1%	9	52.9%	3	23.1%
	イネ	68	32.5%	8	28.6%	37	32.7%	10	26.3%	4	23.5%	9	69.2%
	カボチャ	18	8.6%	3	10.7%	7	6.2%	5	13.2%	2	11.8%	1	7.7%
	オクラ	22	10.5%	4	14.3%	11	9.7%	4	10.5%	3	17.6%	0	0.0%
ゴーヤ	28	13.4%	6	21.4%	18	15.9%	2	5.3%	2	11.8%	0	0.0%	

6. 園外の体験活動で利用したことのある施設

これまでに園外の体験活動において利用したことのある施設や行事等に関して松江市・出雲市・安来市・

雲南市・浜田市・大田市・益田市・江津市の回答を表14にまとめた。

表14 園外の体験活動のために利用したことのある施設や行事

カテゴリー	全体	利用したことのある施設や行事										
		松江市 (n=66)	出雲市 (n=56)	安来市 (n=10)	雲南市 (n=11)	浜田市 (n=16)	大田市 (n=12)	益田市 (n=15)	江津市 (n=8)			
人文科学系	体験	102	35 53.0%	30 53.6%	6 60.0%	8 72.7%	9 56.3%	5 41.7%	6 40.0%	3 37.5%		
	展示資料の鑑賞・観賞	歴史的建造物	37	10 15.2%	8 14.3%	3 30.0%	4 36.4%	6 37.5%	5 41.7%	0 0.0%	1 12.5%	
		美術館	15	1 1.5%	11 19.6%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 8.3%	1 6.7%	0 0.0%	
		博物館	36	7 10.6%	18 32.1%	0 0.0%	4 36.4%	0 0.0%	2 16.7%	4 26.7%	1 12.5%	
		歴史民俗資料館・郷土資料館・文化伝承館	3	0 0.0%	2 3.6%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
		文学記念館	2	1 1.5%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	その他の記念館	展示資料の鑑賞・体験	伝統工芸や地域の産業を体験する施設	21	7 10.6%	10 17.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	2 13.3%	1 12.5%
	食文化を体験する施設		6	2 3.0%	2 3.6%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	
	公演等の鑑賞・参加	音楽堂・公会堂 (主に音楽に関わる施設)	21	6 9.1%	11 19.6%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	1 12.5%
		劇場・演芸場 (主に演劇に関わる施設)	13	3 4.5%	6 10.7%	1 10.0%	1 9.1%	1 6.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	
自然科学系	展示資料の鑑賞	動物園(鳥類を含む)	67	19 28.8%	32 57.1%	2 20.0%	2 18.2%	3 18.8%	3 25.0%	3 20.0%	3 37.5%	
		水族館・水生動物を展示する施設	107	38 57.6%	39 69.6%	5 50.0%	5 45.5%	6 37.5%	6 50.0%	4 26.7%	4 50.0%	
		植物園・フラワーパーク	70	21 31.8%	29 51.8%	3 30.0%	5 45.5%	0 0.0%	1 8.3%	7 46.7%	4 50.0%	
	体験	科学館	52	12 18.2%	31 55.4%	3 30.0%	2 18.2%	1 6.3%	0 0.0%	2 13.3%	1 12.5%	
		森林公園	80	29 43.9%	35 62.5%	2 20.0%	7 63.6%	0 0.0%	3 25.0%	1 6.7%	3 37.5%	
		親水公園・海浜公園	31	9 13.6%	7 12.5%	2 20.0%	1 9.1%	2 12.5%	4 33.3%	3 20.0%	3 37.5%	
伝統行事・祭	参加・体験	伝統行事	21	9 13.6%	4 7.1%	1 10.0%	1 9.1%	2 12.5%	1 8.3%	2 13.3%	1 12.5%	
		年中行事	57	14 21.2%	20 35.7%	1 10.0%	1 9.1%	9 56.3%	4 33.3%	6 40.0%	2 25.0%	
		地区単位で行われる規模の小さな祭	45	10 15.2%	15 26.8%	4 40.0%	2 18.2%	5 31.3%	3 25.0%	3 20.0%	3 37.5%	

7. 園内・園外での体験活動における課題

園内・園外での体験活動実施にあたっての課題について、表15にまとめた。園内・園外とも、「予算が十

分でない」と回答しているものは、補助金や助成金の利用の有無も踏まえて項目を分けた。

表15 園内・園外での体験活動実施にあたっての課題い合いの件数と割合

項目	全体	回答件数と割合							
		保育所		幼稚園		認定こども園			
		公立 (n=28)	私立 (n=113)	公立 (n=38)	公立 (n=17)	私立 (n=13)			
園内の体験活動における課題	研修が十分でない	38	6 21.4%	20 17.7%	3 7.9%	5 29.4%	4 30.8%		
	保育者の知識不足	62	8 28.6%	30 26.5%	6 15.8%	11 64.7%	7 53.8%		
	職員数が十分でない	57	5 17.9%	35 31.0%	3 7.9%	8 47.1%	6 46.2%		
	リスク管理	66	9 32.1%	30 26.5%	14 36.8%	7 41.2%	6 46.2%		
	予算が十分でない(あり)	24	5 17.9%	8 7.1%	10 26.3%	1 5.9%	0 0.0%		
	予算が十分でない(なし)	32	4 14.3%	11 9.7%	4 10.5%	11 64.7%	2 15.4%		
	空間の広さ	26	3 10.7%	13 11.5%	4 10.5%	3 17.6%	3 23.1%		
	時間がとれない	31	4 14.3%	14 12.4%	5 13.2%	3 17.6%	5 38.5%		
	設備や教材の不足	29	5 17.9%	14 12.4%	5 13.2%	3 17.6%	2 15.4%		
	課題なし	38	5 17.9%	22 19.5%	9 23.7%	1 5.9%	1 7.7%		
園外の体験活動実施の課題	研修が十分でない	44	6 21.4%	20 17.7%	5 13.2%	11 64.7%	2 15.4%		
	保育者の知識不足	65	8 28.6%	33 29.2%	9 23.7%	7 41.2%	8 61.5%		
	職員数が十分でない	76	7 25.0%	41 36.3%	11 28.9%	10 58.8%	7 53.8%		
	リスク管理	98	10 35.7%	49 43.4%	21 55.3%	10 58.8%	8 61.5%		
	予算が十分でない(あり)	31	5 17.9%	10 8.8%	14 36.8%	1 5.9%	1 7.7%		
	予算が十分でない(なし)	39	5 17.9%	14 12.4%	6 15.8%	12 70.6%	2 15.4%		
	空間がないまたは距離が遠い	35	6 21.4%	15 13.3%	8 21.1%	4 23.5%	2 15.4%		
	時間がとれない	34	4 14.3%	18 15.9%	5 13.2%	4 23.5%	3 23.1%		
	設備や教材の不足	24	5 17.9%	12 10.6%	2 5.3%	3 17.6%	2 15.4%		
	課題なし	19	2 7.1%	10 8.8%	6 15.8%	0 0.0%	1 7.7%		

また、園外の体験活動における課題の「体験活動を実施するための空間がない、または距離が遠い」と回答している地域の割合を図6にまとめた。

なお、補助金や助成金の活用の有無を確認した際、

「体験活動を実施していない」と回答した園もいくつかあり、何を体験活動として捉えるのかについては保育現場によって異なることが考えられる。

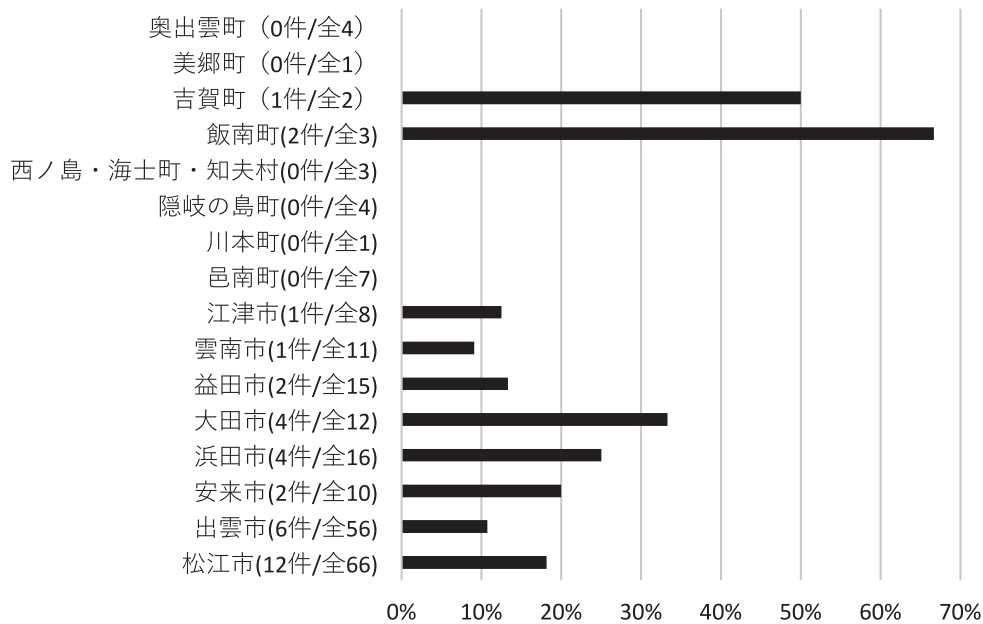


図6 回答の割合

8. 体験活動と地域連携

体験活動実施のために、東部・西部・隠岐においてどのような機関や団体と連携を行っているのか、表16にまとめた。その他として「公民館」、「老人会」、「小学校等の学校」、「コミュニティーセンター」、「活動の目的に沿った専門家」、「民生児童委員」、「地区の振興協議会」、「福祉施設」、「シルバー人材センター」など

が挙げられた。なお、雲南市、益田市、江津市、海士町・西ノ島町・知夫村は公立または私立のいずれかが1園のみの回答であったため、公立と私立の合計を示す。川本町、美郷町は回答が1園のみであったため、表からは省略した。さらに、今後連携・協力していきたいと考えている団体・コミュニティーについても同様に表17にまとめた。

表16 体験活動の実施にあたって連携・協力している団体やコミュニティー

地域	公私	有志	自治会	保護者	農業者・漁業者等	公益施設職員	ボランティア	企業	行政	大学・短期大学	学生	無し	
東部	松江市	公立 (n=28)	18 64.3%	11 39.3%	25 65.8%	8 28.6%	16 57.1%	6 21.4%	2 7.1%	5 17.9%	2 7.1%	3 10.7%	1 3.6%
		私立 (n=37)	11 29.7%	10 27.0%	23 62.2%	9 24.3%	15 40.5%	4 10.8%	4 10.8%	1 2.7%	1 2.7%	2 5.4%	2 5.4%
	出雲市	公立 (n=18)	10 55.6%	5 27.8%	14 77.8%	10 55.6%	11 61.1%	1 5.6%	1 5.6%	4 22.2%	2 11.1%	2 11.1%	2 11.1%
		私立 (n=33)	17 51.5%	15 45.5%	23 69.7%	12 36.4%	20 60.6%	10 30.3%	7 21.2%	7 21.2%	1 3.0%	5 15.2%	1 3.0%
	安来市	公立 (n=8)	6 75.0%	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%	5 62.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%
		私立 (n=3)	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
雲南市	(n=11)	4 36.4%	6 54.5%	10 90.9%	5 45.5%	4 36.4%	2 18.2%	0 0.0%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
飯南町	公立 (n=3)	2 66.7%	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	私立 (n=4)	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	
西部	浜田市	公立 (n=3)	2 66.7%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
		私立 (n=13)	4 30.8%	4 30.8%	7 53.8%	4 30.8%	4 30.8%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	大田市	公立 (n=7)	3 42.9%	1 14.3%	6 85.7%	2 28.6%	2 28.6%	2 28.6%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	
		私立 (n=5)	4 80.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	益田市	(n=14)	8 57.1%	5 35.7%	10 71.4%	5 35.7%	7 50.0%	2 14.3%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	
	江津市	(n=8)	3 37.5%	2 25.0%	7 87.5%	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
邑南町	私立 (n=6)	3 50.0%	2 66.7%	6 100.0%	3 50.0%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%		
隠岐	隠岐の島町	公立 (n=2)	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	
		私立 (n=2)	2 100.0%	2 100.0%	1 50.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
海士町・西ノ島町・知夫村	(n=3)	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%		

表17 体験活動の実施のために今後連携・協力していきたい団体やコミュニティー

	地域	公私		有志		自治会		保護者		農業者・漁業者等		公益施設職員		ボランティア		企業		行政		大学・短期大学		学生		無し		
		公立	私立	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
東部	松江市	公立 (n=28)	12	42.9%	7	25.0%	15	39.5%	5	17.9%	7	25.0%	8	28.6%	5	17.9%	5	17.9%	5	17.9%	11	39.3%	7	25.0%	1	3.6%
		私立 (n=37)	9	24.3%	17	45.9%	19	51.4%	12	32.4%	16	43.2%	7	18.9%	5	13.5%	6	16.2%	10	27.0%	10	27.0%	10	27.0%	2	5.4%
	出雲市	公立 (n=18)	10	55.6%	5	27.8%	12	66.7%	9	50.0%	9	50.0%	5	27.8%	2	11.1%	8	44.4%	3	16.7%	3	16.7%	3	16.7%	1	5.6%
		私立 (n=33)	14	42.4%	13	39.4%	13	39.4%	11	33.3%	11	33.3%	10	30.3%	10	30.3%	6	18.2%	5	15.2%	7	21.2%	1	3.0%		
	安来市	公立 (n=8)	4	50.0%	1	12.5%	4	50.0%	0	0.0%	2	25.0%	3	37.5%	0	0.0%	3	37.5%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
		私立 (n=3)	0	0.0%	1	33.3%	3	100.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	雲南市	(n=11)	6	54.5%	5	45.5%	5	45.5%	2	18.2%	4	36.4%	4	36.4%	2	18.2%	6	54.5%	0	0.0%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
飯南町	公立 (n=3)	2	66.7%	3	100.0%	2	66.7%	1	33.3%	3	100.0%	2	66.7%	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	
奥出雲町	私立 (n=4)	2	50.0%	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	
西部	浜田市	公立 (n=3)	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%
		私立 (n=13)	2	15.4%	1	7.7%	2	15.4%	2	15.4%	1	7.7%	0	0.0%	1	7.7%	2	15.4%	0	0.0%	2	15.4%	1	7.7%	0	0.0%
	大田市	公立 (n=7)	5	71.4%	2	28.6%	4	57.1%	5	71.4%	3	42.9%	1	14.3%	1	14.3%	3	42.9%	1	14.3%	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%
		私立 (n=5)	4	80.0%	3	60.0%	4	80.0%	3	60.0%	2	40.0%	5	100.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%
	益田市	(n=14)	7	50.0%	4	28.6%	7	50.0%	3	21.4%	3	21.4%	7	50.0%	1	7.1%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
江津市	(n=8)	3	37.5%	3	37.5%	4	50.0%	3	37.5%	5	62.5%	2	25.0%	1	12.5%	3	37.5%	1	12.5%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	
邑南町	私立 (n=6)	4	66.7%	3	100.0%	6	100.0%	5	83.3%	4	66.7%	0	0.0%	1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
隠岐	隠岐の島町	公立 (n=2)	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		私立 (n=2)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	海士町・西ノ島町・知夫村	(n=3)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

IV 考察

1. 体験活動の実施頻度

図1・2・3よりいずれの地域であっても自然体験活動の実施頻度は高い。島根県は自然の豊かな地域であり、人口の集中する松江市や出雲市においても自然環境には恵まれている。多くの保育・幼児教育の施設では広い園庭を有している。春から秋にかけて、気候のよい日は園庭に出て外遊びを楽しむ子どもの姿が見られる。最も人口が多くまた密集している松江市でも、保育・幼児教育の施設は郊外に立地していることが多い。市街地に立地する保育・幼児教育の施設も、近隣に公園のあることが多い。このようなことから、自然体験活動に取り組みやすい環境が整っていると考えられる。一方、生活・文化体験活動、社会体験活動はほとんど実施していないということが明らかとなった。この理由として、生活・文化体験活動、社会体験活動を実施するための具体的な方法が備わっていないことが推測される。また、近隣に施設等がない場合は移動の手段を含めて、園外に子どもたちを連れ出すことの困難さがあるのではないだろうか。

表2より自然体験活動の実施頻度を示す得点が1点台とほとんど実施していない活動は「園内で生ごみや落ち葉、雑草などを利用して堆肥や腐葉土を作り、栽培に利用する。」以外、「園外の自然に囲まれたところで、レクリエーションゲームやキャンプファイヤーなどをする。」、「園外の自然に囲まれたところで、飯ごう炊飯やお菓子作りなど調理してその場で遊ぶ。」

「園外でネイチャーゲームなどの自然（動植物や自然物、自然の事象）と五感で触れ合うゲームをする。」、「園外で自然との触れ合いが目的のプログラム（例：自然体験の専門家が提供するもの、教室など）をする。」といずれも園外での活動であった。キャンプファイヤーや飯ごう炊飯、ネイチャーゲームと実施に際して一定の知識や経験が必要であったり、そのような活動を行うための場所を探したりする必要もあり、実施頻度が低かったと考えられる。同様の研究を行っている井上・無藤（2007）は『子どもが主体的に選んだ遊びを評価する保育の場では、こうした活動は保育者が抵抗を感じ、敬遠されるのかもしれない』と述べている¹⁶。但し今回の調査でごくわずかな園ではあったが、活動の目的に沿った専門家との連携を求めている園があったことから園の考える目的と合致するのであれば、自然との触れ合いを目的としたプログラムや教室などの開催を望む声がある可能性がある。同じように捉えると、公益施設職員との連携や協力を期待する回答から社会体験活動の実施、地元の有志や自治体との連携や協力を期待する回答から生活・文化体験活動の実施についても環境が整うのであれば実施を望む声があることが伺える。

次に、地域の体験活動の頻度を質問項目別にみると、運営母体別でも種別でも、2. 3. 4. 5. の数値は高く、9. 14. 20. 22. 23. の数値は低い傾向にある。このことから保育所・幼稚園・認定こども園で、日常の活動として取り組みやすい項目は実施されていると推測

される。

表3から生活・文化体験活動を同様に比較した。公立・私立の運営母体別の比較では、特に頻度の差は見られなかった。また、保育所・幼稚園・認定こども園別の比較でも、特に頻度の差は見られなかった。質問項目別にみると、運営母体別でも種別でも、29.の数値が最も高く、25. 26. 27.の数値は低い傾向にある。自然体験活動同様、保育所・幼稚園・認定こども園では、日常の活動として取り組みやすい項目は実施されていると推測される。表4から社会体験活動を同様に比較した。質問項目別にみると、運営母体別でも種別でも、30.の数値が最も高いものの、総じて数値は低い傾向にある。社会体験活動は低調であり、保育・幼児教育の施設外の、特に一般社会の施設と協力することは少ない傾向にある。但し、ここにはCovid-19の影響によって活動の縮小を余儀なくされている活動がいくつか含まれていることが考えられる。Covid-19による体験活動実施頻度の変化について、「人と関わる体験ができない」、「小学生や高齢者との交流ができない」というコメントが示されていたことから確かと言えよう。また、「歴史資料館や美術館などに見学に行く」について、表14から地域ごとの利用したことのある施設や行事の平均を算出（小数第二位を四捨五入）したところ4.1であったことから施設や行事を活用した体験活動が新型コロナウイルスに影響を受けない場合においては、行われていないわけではないということがわかる。

また、保育・幼児教育の中では、歴史的により教育的な視点で援助を行う幼稚園と、より養護的な視点で援助を行う保育所では、活動に差異がある。幼稚園では、時間的に余裕があり環境を通した援助を行うことができる。それに対して、保育所では長時間保育が当たり前となっている。保育者の繁忙感も伴い、園外活動に費やす時間は限られていると推測される。

また、表8から幼稚園では「園内で飼育栽培している動植物の世話をしたり、観察する。」の実施頻度が保育所や認定こども園の実施頻度が高かった。これを裏づけるように表11をもとに1園あたりの飼育している動物種の平均を算出（小数第二位を四捨五入）すると、保育所では3.5種、幼稚園では5.6種、認定こども園では4.4種と幼稚園の飼育種が最も多く、さらに表13も同様に栽培している野菜種の平均を算出すると保育所7.4種、幼稚園8.1種、認定こども園6.9種と僅か

な差ではあるが幼稚園が最も多くなっている。一方で保育所は「園外の自然に囲まれたところで、鬼ごっこなどの身体を動かす遊びをする。」、「園外の自然に囲まれたところで、ボールなどを使った運動遊びをする。」、「園外の自然に囲まれたところで、一定範囲内を自由に歩いたり、見たり、好きなことをしてゆったりと遊ぶ。」が幼稚園に比べて実施頻度が高く、園外活動のとりわけ運動遊びや自然の中での子どもが主体的に選んだ遊びをすることに力を入れた取り組みを行っていることが考えられる。公立（国立）か私立かについては、有意差の出たものはいずれも公立（国立）は園内や室内での活動、私立は園外の活動であった。この理由は今回の調査では明らかにできなかった。

表12から各保育現場では多種多様な植物種が栽培されている。なぜその種類を栽培しているのかについては今回の調査で明らかになっていないものの、植物を栽培することが保育活動の中に当たり前に取り込まれていることがわかる。奥原（2012）が造形表現活動を組み入れつつ花を育てる体験活動の教育的意義について、『花を育てる体験は、自分以外の人や物を大切にすることを育む一助になる』¹⁷と述べていることから、島根県内の保育現場でも同様の実践が展開されていることがわかる。

2. 地域の体験活動の取り組みと特徴

自然体験活動の実施頻度について、地域別に松江市、出雲市、安来市、雲南市（以上出雲地区）、大田市、浜田市、益田市、江津市（以上石見地区）の8市、東部（出雲地区）・西部（石見地区）・隠岐の3地域でみた（質問項目1.~23.）。8市及び3地域の数値は、頻度の差のある項目もあれば、ない項目もあった。総じて数値の高い質問項目は1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10. 18. である。これらは、日常の活動として取り組みやすい項目である。一方、総じて数値の低い質問項目は9. 13. 14. 20. 22. 23. である。これらに共通するのは、活動に専門的な知識が必要なことである。また、19.の数値が比較的低いのは、絵本読みは室内の活動として行われ、屋外で行うと子どもが集中できないことを懸念することによって推測される。頻度差があり数値の高い項目として6.の雲南市、12.の大田市、15.の大田市、16.の大田市、雲南市、18.の大田市、21.の雲南市がある。

大田市は三瓶山を含む地域であり、雲南市は中山間地域であることによると推測される。一方、頻度差があり数値の低い項目として2. 11. の安来市、7. の浜田市がある。これらの理由は不明である。

生活・文化体験活動の実施頻度について、同様に8市、3地域でみた（質問項目24. ～29.）。8市及び3地域の数値は、頻度の差のある項目もあれば、ない項目もあった。26. ～29. では特に頻度の差は見られなかった。28. 29. の数値が比較的高く、季節の行事に関連した活動はどの地域でも実施されている。一方、24. は松江市の頻度がとりわけ低く、これは都市化の影響で、地域の伝統行事が減少したり無くなったりしていることによると推測される。また、25. は浜田市、大田市、江津市及び西部（石見地区）の数値が高い。これは、この地域の伝統文化である石見神楽が今なお盛んであり、保育・幼児教育の中でも取り組まれていると考えられる。

社会体験活動の実施頻度について、同様に8市、3地域でみた（質問項目30. ～43.）。8市及び3地域の数値は、頻度の差のある項目もあれば、ない項目もあった。32. ～43. では特に頻度の差は見られなかった。30. は雲南市、益田市、31. は大田市の数値が高いが、この理由は不明である。そして、松江市の数値が総じて低く、出雲市も同様である。都市部は、インフラは整っているにもかかわらず社会体験活動には消極的な傾向が示された。

次に、体験活動の実施頻度の分析結果から考察する。今回の調査で「自然体験活動」として示した多くの項目で、松江市、出雲市、雲南市、安来市の中で出雲市と雲南市が他の市と比較して自然体験活動を活発に行っていることがわかる。県庁所在地であり、最も人口の多い松江市と2番目に人口の多い出雲市を比較してみると、次のようなことが考えられる。松江市は近世より出雲地区の中心となったが、古代においては出雲大社の存在に象徴されるように出雲市周辺が中心であった。古代より連続と続く文化的な伝統が、根底にあると考えられる。木造の出雲ドームや秋の風物詩でもある出雲駅伝の開催によるスポーツ振興、出雲科学館や島根県立古代歴史博物館、今岡美術館など、科学・文化の普及活動の拠点となる施設もある。また、学術の拠点としては島根大学医学部、島根県立大学出雲キャンパス（看護栄養学部）がある。県都の松江市に匹敵するインフラと人的資源があると考えられる。

また、2011年に編入で出雲市となった斐川地区（旧簸川郡斐川町）では、公民館活動が盛んであり、保育・幼児教育から学校教育に至るまで、地元の有志がボランティアとして積極的に関わっている。また、平成の大合併（2005年）で出雲市に編入した平田地区（旧平田市）では、地区行事が今なお盛んで、独自の教育活動を推進している。出雲市の中で、地区ごとに様々な取り組みが行われ、保育・幼児教育に反映されているのでないだろうか。そして、出雲地区の多様な地域資源を教育活動に還元する行政的な取り組みもあると考えられる。

さらに出雲市内の保育所や幼稚園のホームページをいくつか確認したところ、「豊かな心情を育て、いきいきと生活する体験活動を重視し…（出雲市立荒木幼稚園）¹⁸」や「直接体験・自然体験・本物体験などの具体的な体験活動を継続して実施することで…（出雲市立高松幼稚園）¹⁹」、「小・中・高校生の訪問や職場体験学習を積極的に受け入れ…（出雲市立直江保育所）²⁰」のようにホームページからも実際に体験活動が積極的に行われていることが伺える。

また、雲南市²¹においては、保・幼・小・中・高の一貫したキャリア教育を目的に行われている幼児期の重点目標と中心となる学びに「平和と人権」、「世の中のしくみと勤労」、「自然環境・歴史と文化」、「基礎的体力・生活リズムと『食』」とあるように、地域の行政と保育所や幼稚園、小中学校や高校の一体的な取り組みによって体験活動が活発になされていることが伺える。但し、井上・無藤（2007）が当時の東京都と兵庫県の保育所・幼稚園の自然体験活動の実施頻度を調査した結果²²と比較すると概ね島根県内の各地域は東京都や兵庫県と比べて自然体験活動が活発に行われていることがわかる。

園外の体験活動のために利用したことのある施設や行事に関して、地域によって施設の数やその立地や交通の便などによって利用の仕方は様々であるため、一概に地域の特徴を示すことはできないものの、出雲市や雲南市が他の市と比べて明らかに割合が高いものが「歴史・民族資料館・郷土資料館・文化伝承館」、「植物園・フラワーパーク」、「森林公園」であり、ここからも様々な体験活動に活発に取り組んでいることが推測できる。

ただ、以上のことは、あくまでも推測の域を出ない。今後、保育・幼児教育の施設に赴き、アンケート

調査では把握できなかった、各地域の取り組みを明らかにすることが求められる。

3. 地域の体験活動の課題

保育・幼児教育の中で、取り組みやすいと推測される自然体験活動は多く行われている。その一方で、生活・文化体験活動と社会体験活動の取り組みは少ない。乳幼児期の直接体験の重要性は保育者に広く認識され、五感を通した様々な体験をすることの意義は保育現場に広く浸透していると考えられる。特に、自然及び自然物との関わりを通して培われる諸能力の育成は、保護者や地域住民からも共感的にとらえられている。植物を栽培して収穫し食育に結びつける活動や、採集した自然物で造形表現活動をするなど、様々な事例がある。それに対して、生活文化体験活動や社会体験活動は、知識や言語能力も必要である。直接、見たり聞いたり、嗅いだり、触ったりしても、自然や自然物のように直感的に理解できることは限られる。保育者自身も、生活・文化体験活動や社会体験活動の必要性を認識している、保育・幼児教育の中で実践するためにはいくつかの課題があると考えられる。それは自然体験活動においても同様に考えられる。次にその課題を以下に示す。

①外部の人材の活用

保育現場の、特に保育所における人手不足は、様々な処遇改善策が行われているにも関わらず、解消の目途は立っていない。保育者が全ての活動を計画し実施することは現実的ではない。保育者以外の自然体験活動、生活・文化体験活動、社会体験活動の専門家と共に、計画を立て実施をすることが求められると考えられる。また専門家以外であってもこれまで地域で暮らしてきた高齢者を中心とした人材、ボランティアや有志が保育現場と積極的に関わり、地域全体で保育を行う環境が求められる。

②保育現場と外部の人材を結びつけるコーディネーターの設置

保育現場と専門的な知識を持つ人材を結びつける役割を担う「人材バンク」があることによって、外部人材の活用につながる。公民館を始めとする地域のコミュニティや福祉・教育行政が関わることで、人的交流が生まれると考えられる。保育現場と外部とを繋

ぐ役割には行政の関わりが不可欠と考えられる。実際に表17から多くの地域でも行政との連携・協力を望む声は高く、保育現場が行政に期待する役割は重要なものであると考えられる。

③養成段階からの体験的活動を基盤においた学習の充実

保育者は保育・教育の専門家であっても、自然、生活・文化、社会の専門知識は十分でないこともある。特に若年層の保育者は、生活スタイルの変化から体験不足であることが多いようである。植物を栽培し収穫した経験や、昆虫や小動物を採集・飼育した経験も乏しく、「虫に触れない」保育者もいると聞く。保育者は、子どもが興味や関心を抱くような環境を構成し、中でも人的環境として子どもを導くモデルや共同作業者としての役割が求められている。保育者となるまでに、様々な経験がないのであれば、保育者養成校である大学や専門学校で、カリキュラムの中に体験活動を含めた学習を位置づけ、保育者を目指す学生の知識を増やすことや保育現場との連携・協働による養成教育が必要と考えられる。但し、短期大学においては資格や免許取得のためのカリキュラムによって年間の授業日程は過密を極めている。そのため、既存のカリキュラムの中に効果的に体験活動を踏まえた授業を展開していくことが望まれる。

表15から、全体的に園内での体験活動より園外の体験活動における課題が高く、リスク管理が施設種別に関わらず最も高いことから、保育者が保育の中で安全管理を最も重視していることが推察できる。さらに、数値にばらつきはあるものの「保育者の知識不足」や「職員数が十分でない」、「予算が十分でない」の項目において数値の高さが目立つことから、誰でも簡単に取り組むことができるようなプログラム化や情報発信を行うこと等、保育者の感じる悩みに対してその課題解決の糸口を見つけることは急務であると考えられる。

4. 今後の課題

今回は質問紙調査法を用いて量的に保育現場における体験活動の実態を明らかにすることを試みた。各保育現場のこれまで実施してきた取り組みや保育観を検証することには至らず、インタビュー調査によって体験活動に関する取り組みを丁寧に分析することが求められる。本調査で自然体験活動、生活・文化体験活動、

社会体験活動として位置づけた項目が保育現場で体験活動として認知されていない場合も考えられるため、日々の活動について丁寧に調査していく必要がある。

園内および園外の体験活動における課題と実施頻度について、今回の調査で示した項目以外にも体験活動実施を阻む課題が存在している可能性があり、これに関してもインタビュー調査によって明らかにしていくことが求められる。また、新型コロナウイルスの影響により小学生や高齢者との交流が減少している。これに関しては一刻も早く感染症の収束を祈るばかりである。

最後に2017年6月「教育再生実行会議」第十次提言²³では、学びに向かう姿勢や態度を育成する上で「幼児教育」は極めて重要と指摘され、地域の豊かな自然や施設などNPOや民間機関と連携しながら、家庭の経済事情に関わらず、全ての子どもたちに体験活動の機会が与えられるような体制づくりが求められている。しかし、今回の研究では、園内・園外におけるリスク管理や、特に園外の活動における知識や情報等の不足、職員数や予算等の不足に保育者が悩み、活動に支障をきたしている園が2～3割程度存在することが明らかになった。柴田・柴田(2021)²⁴は、地域資源を活かした活動が保育実践へもたらす利益や具体的な効果が示されておらず、実践者と研究者がその活かし方を議論する必要性を述べており、保育者の悩みと地域資源の活かし方に対して、サポート体制の構築を推進する必要がある。今後の課題として、園内や・園外における体験活動の知識不足やリスク管理を解消するような研修の開催、職員数・予算不足の課題解決策として地域の人材を活かしたネットワークづくりの推進、地域の施設・自然・文化や芸術等を活かすため、自治体や地域の高齢者・中・高・大学生を含むコミュニティ・私企業・公民館等との連携・協働体制を活かした保育・幼児教育のプログラムづくりが求められる。また、汐見(2018)²⁵は地域の高齢者が知恵を与え、子どもから元気をもらうような、新しい子育てに価値を置き、研究や実践の構築が重要だが進んでいないと述べており、高い高齢化率の鳥根県において、地域資源を活かした保育・幼児教育プログラムを開発し、検証していく意義は大きく、安心あるコミュニティや子育て環境の構築に繋がることを期待できる。これらのことから地球や地域の自然と共生するこ

とを基盤とし、地域の人的資源の活用や一人一人が互いのつながりを尊重し育て合える持続可能な社会を推進する仕組みを保育・幼児教育期に構築することが肝要であると考えられる。

V 結論

以上のように、体験活動を取り巻く地域の課題について、①外部の人材の活用、②保育現場と外部の人材を結びつけるコーディネーターの設置、③養成段階からの体験的活動を基盤においた学習の充実を示した。鳥根県は豊かな自然環境に恵まれ、各地域に今なお伝統文化の残る土地である。人口密集の都市部であっても、身近なところに自然があり、保育・幼児教育の中で活用していることがあらためて分かった。その一方で、少子高齢化と人口減少という課題を抱えている。豊かな自然環境や伝統文化などの地域資源があっても、その資源を保育や幼児教育の中で体験活動につなげていくためには、活動を支える人的資源とそれを活用するシステムが必要となる。外部人材の活用と保育現場と外部人材を結びつけるコーディネーターの存在が求められると考えられる。

また、自然活動体験についてはいくつもの先行研究がある中、これまで、先行研究の乏しかった生活・文化体験、社会体験活動についても調査を行い、データを得ることができた。その結果、自然体験活動に比べて実施されていないことが示された。自然とは異なり、特に人との関わりが中心となる生活・文化体験、社会体験活動を、保育・幼児教育の中で実施していくことの困難さは想像できる。しかし、人格形成の基盤となる乳幼児期には、保護者や保育者など特定の人以外と関わる経験が必要不可欠であり、人と人との関わりが希薄となりつつある昨今は、三世代交流や異年齢交流を始めとし、地域の人的資源となる方々に触れ合うような環境づくりが保育現場に求められると考えられる。

そして、保育・幼児教育の中では、子どもたちと直接関わる保育者の役割が重要である。保育者自身に豊かな体験活動の経験があることによって、自然活動体験、生活・文化体験、社会体験活動の大切さが認識され、保育・教育活動の中に取り入れることにつながるのではないかと。現在、保育現場で働いている若年層の保育者や保育者養成校の学生は、生活環境の変化やSNSの普及、Covid-19の蔓延で生活体験の不足が多方

面から指摘されている。保育者養成校の責務としては、学生が保育現場で働く前に、カリキュラムの中に地域のフィールドに足を運び、地域資源を活用した体験活動を取り入れ、保育者の質の向上に貢献していきたいと考えられる。

調査全体を通して、多様な視点にもとづくデータの収集と分析によって、鳥根県における自然活動体験、生活・文化体験、社会体験活動について、活動実施の実態が明らかとなり、一定の成果があったと考えられる。しかしながら、アンケート調査による限界も明白となった。今後は、各地域における体験活動の実態をより明らかにするために、実地調査を計画し実施していきたい。そして、鳥根県の調査で明らかとなったことが、各都道府県においても共通するのか、あるいは鳥根県独自の傾向であるのかを明らかにするためにも、全国調査の実施を考えていきたい。

謝辞

本研究を進めるにあたって、質問紙の作成にご協力いただいた「子どもBASE」代表佐伯絵美氏、アンケートの回答にご協力いただいた保育所、幼稚園、認定こども園の保育者の方々に厚くお礼を申し上げ、感謝の意を表します。

- 1 『平成28年度文部科学白書』「第1部/特集 子供たちの未来を育む豊かな体験活動の充実」, https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201701/1389013_007.pdf, (2022年6月23日).
- 2 井上美智子・無藤隆, 「幼稚園・保育所における自然体験活動の実施実態」『教育福祉研究』, 33, 2007, 1-9.
- 3 井上美智子・無藤隆, 「幼稚園・保育所における自然体験活動の実施実態(2)動物飼育の実態」『教育福祉研究』, 35, 2009, 1-7.
- 4 木村仁美・斉藤真苗・板倉美咲・橋爪一治・門脇正行・鶴永陽子, 「鳥根県松江市内の幼稚園・保育所における栽培活動を通じた食育の実施状況」『日本家政学会誌』69(7), 2018, 526-535.
- 5 八木孝憲・井出智博, 「自然体験活動を取り入れた保育の実態と効果」『自然保育学研究』2(1), 2019, 24-36.
- 6 生川美江・磯部由香・平島円・吉本敏子・鈴木理可・加藤静香・西村訓弘, 「三重県内保育所・幼稚園における食農教育の実態」『一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集』, 70(0), 2018, 186.

- 7 藪田弘美, 「地域の自然環境を活用した保育実践について-非認知的能力を視点として-」『教職教員研究』, 1, 2017, 27-34.
- 8 天ヶ瀬正博, 「幼稚園教育における環境と生命と人間の関わりを感じる体験活動:奈良県うだ・アニマルパーク『<いのち>の教育』を参考にして」『教育システム研究』, 13, 2018, 59-69.
- 9 辻川ひとみ・吉住優子, 「小規模保育施設における園外活動に関する基礎的研究」『帝塚山大学現代生活学部紀要』, 18, 2022, 37-45.
- 10 椎野亜紀夫, 「保育施設の園外活動による都市公園利用様態と利用者属性との関係性」『ランドスケープ研究』82(5), 2019, 487-492.
- 11 浦田愛水・後藤春彦・山村崇, 「園庭をもたない保育施設における園外活動の空間的広がり地域資源活用」『都市計画論文集』, 53(3), 2018, 423-430.
- 12 小林真・岩田郁代・米崎瑛美・稲垣恵美子・舟林美乃・高島浩美・神川瑞子・中田良子・山村弘美・廣田仁美・島田みどり, 「園外で自然体験活動を計画する際の留意点について:サマーチャレンジの活動実践を通して」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要』, 11, 2016, 123-132.
- 13 「県内保育所一覧」, 『鳥根県』, <https://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/kosodate/hoikusho/hoikusho.html>, (2022年7月4日).
- 14 「鳥根県認定こども園一覧(市町村別)」, 『鳥根県』, <https://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/kosodate/kodomoen/index.data/shichousonbetsu04.pdf>, (2022年7月4日).
- 15 鈴木淳子, 『質問紙デザインの技法〔第2版〕』, ナカニシヤ出版, 2016.
- 16 前掲2.
- 17 奥原球喜, 「保育における花を育てる体験活動の教育的意義に関する考察:栽培活動と造形活動による総合的な活動を通して」, 『広島文化学園短期大学紀要』, 45, 2012, 5-10.
- 18 「荒木幼稚園」, 『出雲市』, <https://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1447222486521/index.html>, (2022年10月11日).
- 19 「高松幼稚園」, 『出雲市』, <https://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1496981913468/index.html>, (2022年10月11日).
- 20 「出雲市立直江保育所」, 『出雲市』, <https://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1447222486521/index.html>, (2022年10月11日).

- izumo.shimane.jp/www/contents/1328862749097/index.html, (2022年10月11日).
- 21 「夢発見プログラム 雲南市キャリア教育推進プログラム〈保幼小中の一貫したプログラム〉ダイジェスト改訂版」, 『雲南市』, <https://www.city.unnan.shimane.jp/unnan/kosodate/syuugaku/manabi/files/51beaa74006.pdf>, (2022年10月11日).
- 22 前掲2.
- 23 「第十次提言の概要」『首相官邸』<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kyouikusaisei2013.html#kyo16>, (2022年10月27日).
- 24 柴田卓・柴田千賀子, 「地域の資源を活かした自然保育に関する研究」, 『郡山女子大学紀要』, 57, 2021, 21-39.
- 25 汐見稔幸, 『森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック』, 風鳴舎, 2018, 12-13.

Fact-finding survey of hands-on activities at nursery schools, kindergartens, and centers for early childhood education in Shimane Prefecture: Regional Issues Surrounding Hands-on Activities

Katata Hiroyuki* · Kato Tomohiko · Funakoshi Miyuki

Abstract

A survey was conducted using questionnaires on the actual conditions of hands-on activities at nursery schools, kindergartens, and certified children's centers in Shimane Prefecture. Nature experience activities were actively carried out at each childcare site, regardless of the management organization, region, or type of facility, but life and culture experience activities and social experience activities were conducted only at specific childcare sites. It was not implemented in many places. Lack of specific methods for conducting life/cultural and social experience activities from the answers to the issues for conducting experience activities, lack of facilities in the neighborhood, and difficulty including means of transportation thought. Challenges in conducting hands-on activities include the lack of specific methods for implementing life and culture experience activities and social experience activities, and the lack of facilities in the neighborhood, including transportation. However, it can be said that each region is working on hands-on activities while cultivating and breeding nature, animals and plants that are commonplace in the surrounding area. In addition, when we looked at the frequency of hands-on activities by region, we found that in regions such as Izumo City and Un-nan City, the local government and childcare sites are actively working together.

As issues for implementing hands-on activities in the field of childcare and early childhood education, we showed that the childcare field needs to “utilize external human resources”, the local government needs to “establish a coordinator to connect the childcare field and external human resources”, and childcare training schools needs to “enhancement of the learning that put an activity of experiencing it to base from training stage”.

Keywords: experience activities alignment childcare teacher training

*Osaka College of Social Health and Welfare, Department of Child Care and Education

